三島朝倉両博士序文

# 吾妻五湯案内

四萬 澤渡 川原湯 草津 鹿澤

改訂再版

島田齊胤著

Sh 36

K2953
Sh 36

萬國學校衛生會議永久委員會本部理事
英國皇立衛生學院名譽特別會員
從五位醫學博士 三島通良先生序文
東京朝倉病院長醫學博士 朝倉文三先生序文

上州吾妻五湯案內

改訂再版

▲四萬 ▲澤渡 ▲川原湯
▲草津 ▲鹿澤

島田齊胤著

# 吾妻五湯案内記序

理化學の未だ開けざりし古代に在りては、陰陽五行の作用を以て之を神力と崇め、且つ醫治に用ひて病死の苦を救ふに供したる事は、世界各國皆其例を同じくす殊に地中より湧き出でたる熱泉には、不可思議の力の籠れるものと信じて、汎く之を醫療に用ひし事、我國に在りても、實に神代の昔に創まれり。其は左に掲ぐる、伊豫風土記、道後、湯の宮の記事に徵するも明かなり

伊與國湯郡。大穴持命、宿奈比古那命欲活而大分速見湯、自下樋持度來、以宿奈比古那命令浴漬者。暫間有活起居。然詠云。眞暫寢哉、踐健



群馬県立図書館
昭和
33.12 2
27961

跡處。今在湯中石上也。凡湯之貴奇、不神世時耳。

於今、染疹痾、萬生爲除病、存身要藥也

後世理化學の進歩著しく、醫藥の人工に成るもの多きに迨びて、天然の力を醫療に用ふる事、殆んど醫人間に失念せられたり。近年に至り、達識の醫家出でゝ、其の理を究め、其道を明にして、再び陰陽五行の、醫治上に於ける効能、顯著なるを識らしむ、理科療法と稱して、今や隆盛を極むるものは、主として空風地水火を醫治に應用するものにして、湯治法の如き此が隨一なり。

温泉に富める事、我國の如きは世界に稀なり。然も温泉利用の道の幼稚なる事も、亦我國の如きは稀なり。材は之を以て樓閣を築き、糸は之を以て錦繡を織るの智能



を有ち乍ら。温泉に限りては、樋を以て之を槽に導くの外、廣く利用するの方法を知らず。其浴室の粗なるは、朝倉の丸木の宮を忍ばしめ、其保養の備なきは、飯水曲肱の樂みを距る遠からず。かくては、温泉をして、醫治の効を盡さしむる事能はざるのみならず、青人草の疾苦を救はんが爲に、澤なる温泉を與へ給ひし、天神地祇の、神慮のほども懼ろしからずや

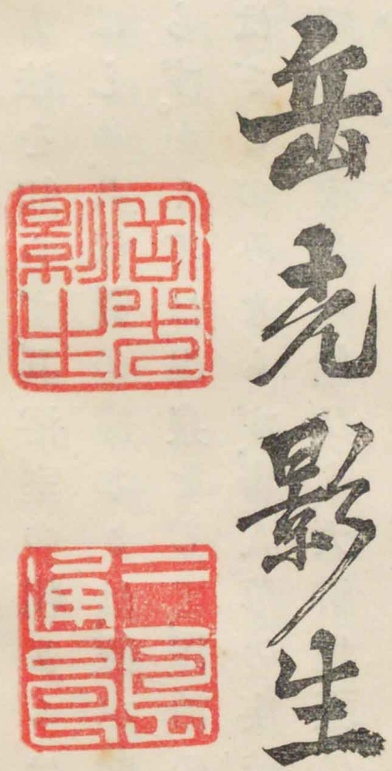
余、先年公命を帶びて歐洲に見學せる時、理科療法を修め、湯治法を研究して、該地湯治場の設備の完成し、利用の充實せるに感歎し、意に我國温泉場の改善を期せり。而して之を行ふは、直接に利害ある、其地方の奮勵に待つべき事論を俟たざれども、然も温泉に依りて、療養の

利を收めんとする人士の、之に協力するにあらざれば、決して成功を期すべからざるを信ず。

島田君吾妻五湯案内記を著して、余の序を請ふに當り、常に懷抱せる意見を識して、以て序に代へ、江湖に諮ふ

明治四十一年文月　東京三島醫院に於て





# 序

這回、島田君上毛五湯之記を編し、予の序を求めらる、予不敏當る所にあらずと雖も其擧の最も賛成すべきを以てや敢て辭せずして爰に一言す。

予、上毛の南隅に生れ、久しく五湯の名を耳にし且、先人の毎に夏を伊香保、四萬、澤渡に銷し、其間、時に杖を草津に曳き、温泉諸勝及び附近の風景を寫生せしものを家に藏存し、之に對

する毎に神爽飛越遊意禁ずる能はざりしが、再昨及昨の兩歳相繼で暑を此地に避けたるを以て、親しく先人遺墨中の山水に接し、其靈泉に浴し、都門の塵垢を洗ひ、心身を新にし、以て大に宿昔の志願を報ゆるを得たり、其快や又喩ふるにものなかりき。

抑、湯治の目的たる、靈泉に浴し、疾病を醫し、身體を强健ならしむるに在りて、其地の氣候風土の又體に適すること、旅舍の衞生的設備の之れに伴ふにあらざるよりは、完全なる効果を



收め難し、惟ふに五湯の地、氣候風土の適、山水風景の美、鑛泉の靈妙と共に備に之を天然に得ること雖も、然も旅舍の設備の如き尙ほ人爲に待つもの少しとせず、而して各湯地に存する所の古風の習俗は、遠客をして感興を惹く淺からざるものあり、其改良施設に當りても永く保存するの要あるを見る。

若夫、各湯の醫療的効能に至りては、編中詳に之を說述せり、蓋し五湯の偉効を顯揚し其名と實とをして、普く天下に知らしめんこと大

に本書に望む所なり。

明治四十一年七月下浣東都城北の寓居に於て

朝倉文三



# 自序

此册子は一昨年吾妻温泉巡遊者の案内にもと編纂せしところ意外の好評を得既に品切れとなりしかば今茲に改訂再版を剞劂に附する事とはなりぬ。

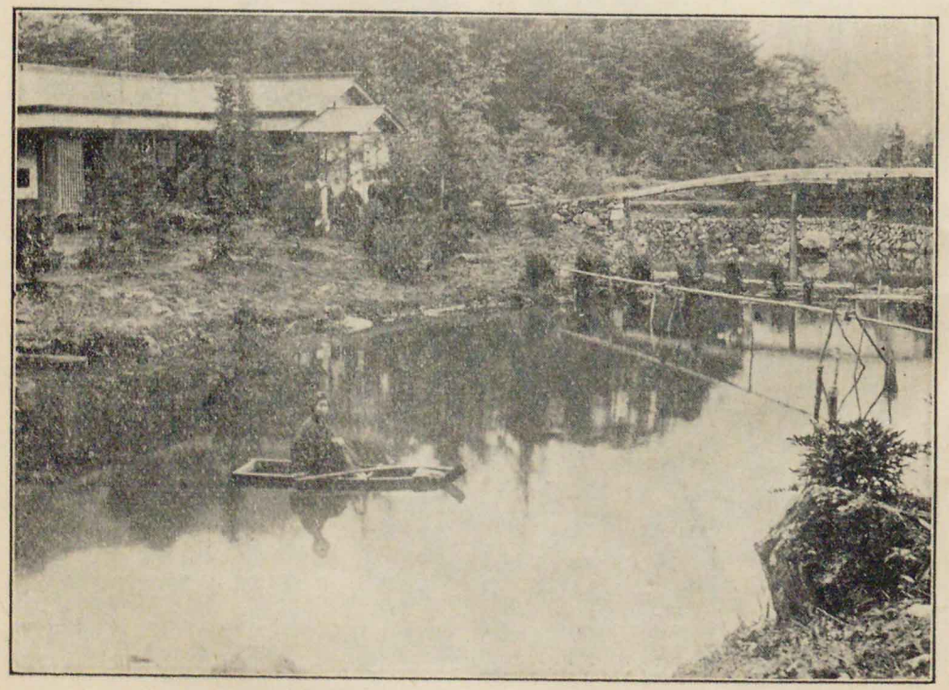
惟ふに本秋當縣主催の關東北聯合共進會は未曾有の盛擧として縣下の萬有を社會に紹介するの好機會ならむ、此秋に方つ

て本書儻し幸に吾妻五湯を左右に知らしむるの一助ともなるあらば眞に是れ望外の幸福ならむ哉。

明治四十三年關東北聯合共進會將に縣下に開催せられんと聞ける初夏

編者識

四萬　積善館　關善平客館の一部



同上別館中井の里摘翠亭

# 上州四萬一等鑛泉

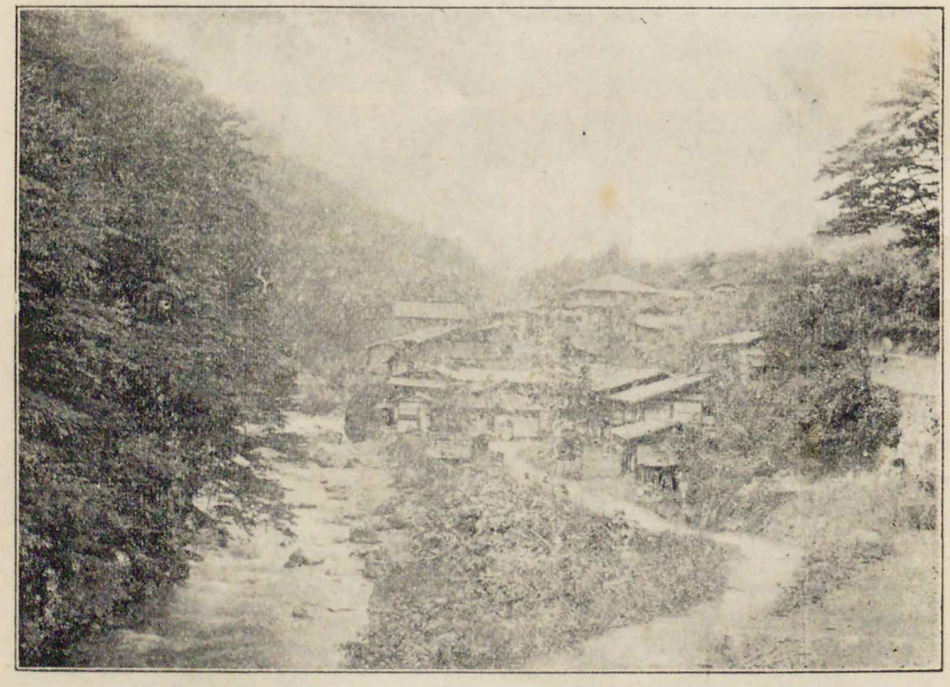
地勢〜海拔二千五百尺空氣清涼山蒼く水白く四時の眺望に富む
泉質〜無色透明の鹽類泉にして溫度華氏百八十三度
効能〜胃病、リウマチ、慢性皮膚病、手足關節の痿痺、神經痛、貧血症、腦病、脚氣、疝痛、痔、子宮病、月經不順、
特色〜當館は各室清潔にして溪流に臨み山水の眺望に宜敷邸內平坦にして入浴至極便利取扱懇切にして輕費を旨とす郵便局は構內にあり

明治湯
鹽ノ湯

## 元一積善館 關善平

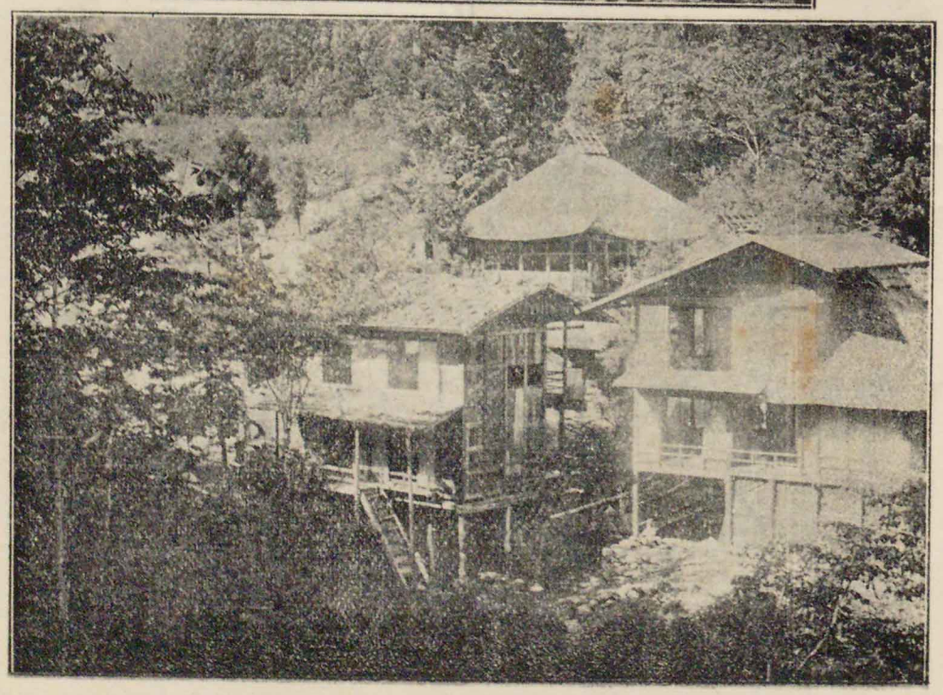
勝地〜水昌山、臘石山、小倉の瀧、摩耶の瀧、大泉、小泉、澁砥泉、日向見藥師、關ヶ岡、偕樂園及其他遊步場
浴期〜夏期は勿論春秋冬共に宜し尙十一月より翌年三月迄は室料を割引且つ浴錢不申受候
交通〜東京上野一番に御乘車相成候へば日着容易なり前橋、高崎兩市より澁川町迄電車の便あり同所より人力馬車自在に御座候
賄費〜一週間凡り一等自四圓至七圓二等自二圓至四圓三等自一圓至三圓御好に應じ候

四萬溫泉（新湯）の景

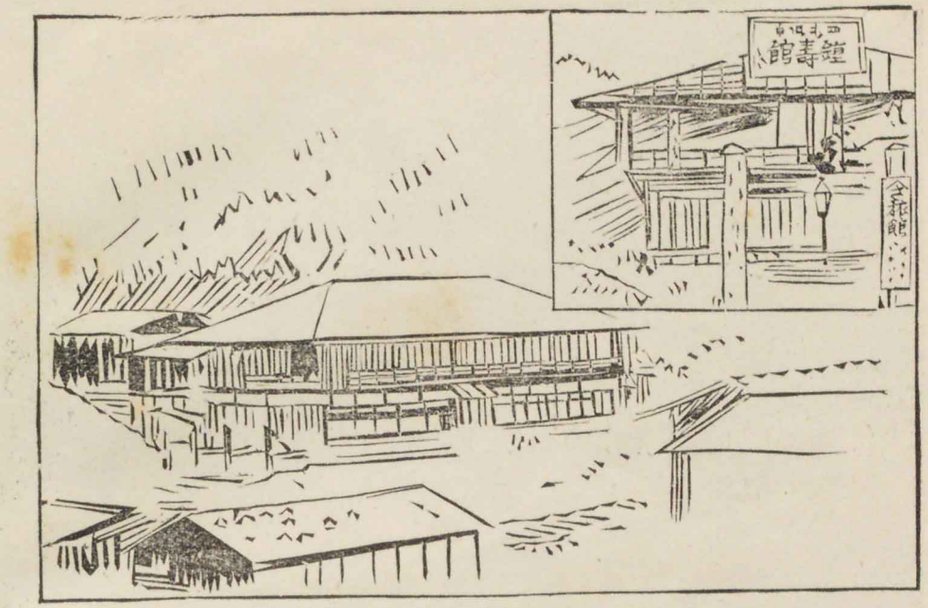


四萬溫泉（山口）の景

四萬名勝小倉の瀧



四萬、日向見温泉及び古堂





## —(上毛四萬鑛泉)—

▲本館は眺望至極宜敷御座候
▲東京より日着御自由に御座候
▲馬車人力車何れも御便利に御座候

常磐湯
鹽の湯元　鍾壽館　猿谷倉之進

▲新館落成仕り客室清潔に御座候
▲浴室並寢具等は最も清淨に御座候
▲特別の勉強可仕候間御愛顧奉希候

## —(上毛四萬鑛泉)—

▲四萬は山紫水明の仙境に御座候

▲東京より日着御自由に御座候

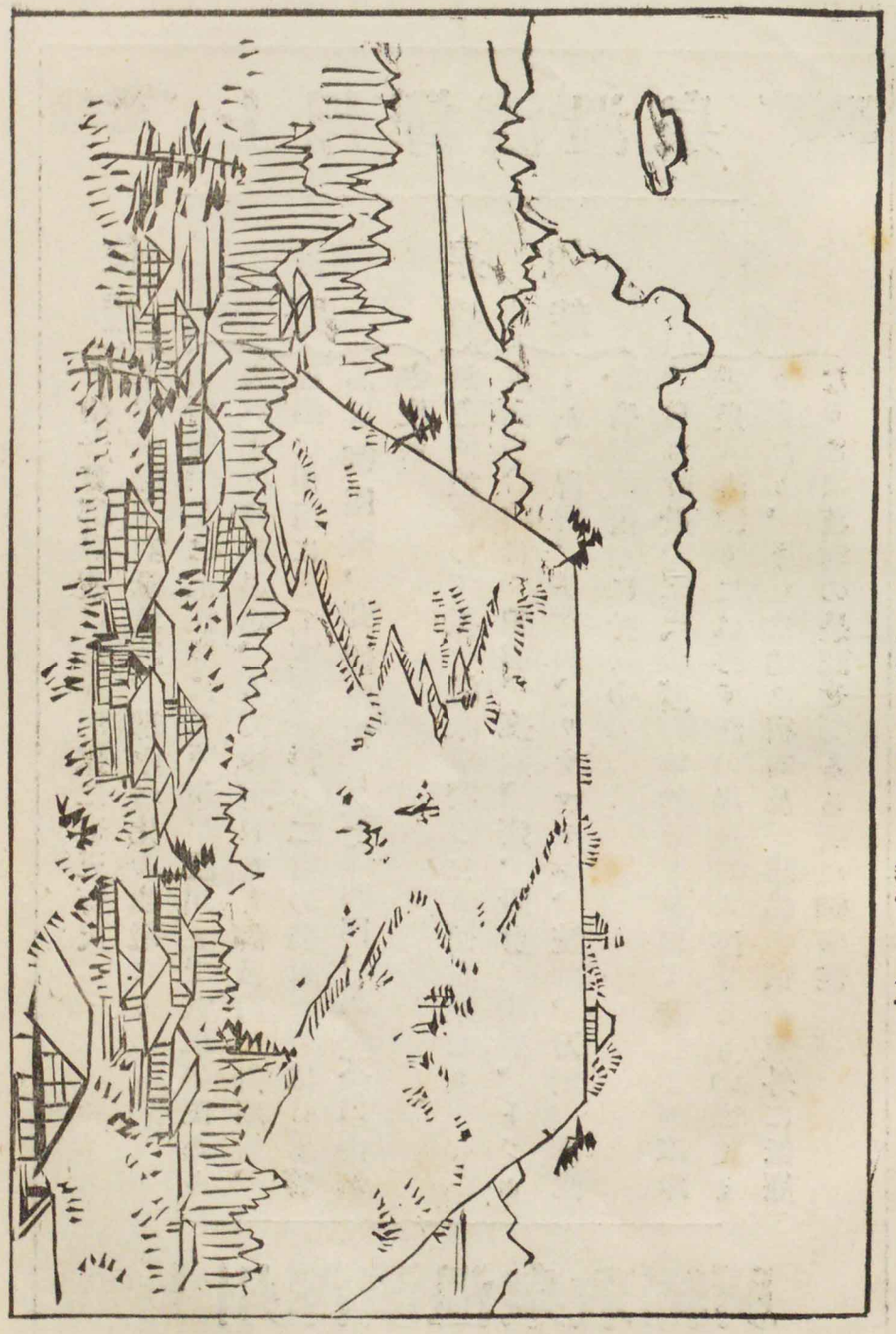
▲馬車人力車何れも御便利に御座候

神告の湯
燕の湯 **元山口館 田村八平**

▲名所、散策地は近傍に充ち居候

▲本館は格別勉強を專一と仕候

▲御誘ひ合され御來浴の程奉希候



# 上州澤渡温泉

**位置**　上州吾妻郡澤渡にあり海拔二千三百尺
土地高燥、空氣清涼、郡中無比の仙境なり

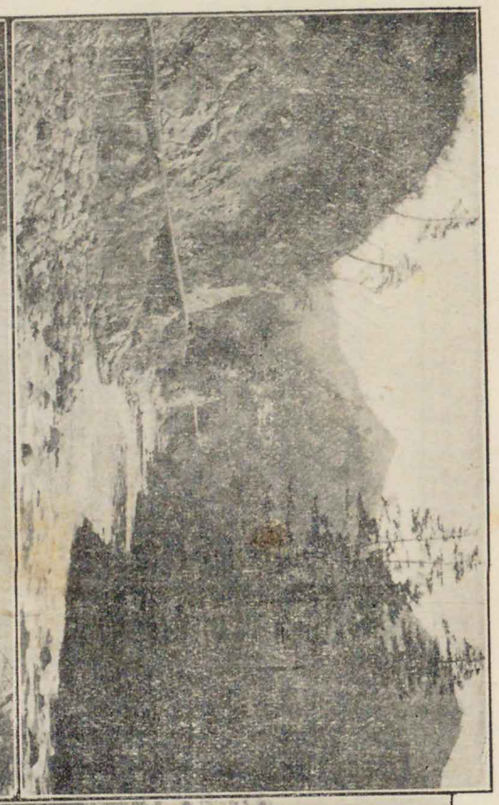
**通路**　高崎驛、又は前橋驛にて下車し溢川まで電車の便あり
夫れより時間馬車、人力車何れとも御自由に御座候、
道路は平坦にして東京一番、二番の發車までは日着容易に御座候、郵便は毎日發着四回、萬事不自由無御座候

**泉質**　無色清澄にして微に鹹味を帶びたる硫黄泉なり

**効能**　皮膚病、梅毒、線病、痲病、痔、肛、眼病、トラホーム、胃病、子宮病、リウマチス、銃創、刀創、其他重病の同復期に特効あり

**特色**　本泉は收斂、防腐、殺菌の特効あるを以て昔しより草津鑛泉入浴歸りには必ず此の温泉に入浴するものと定まり居れり、また當地は宿料及び諸品の價格意外に低廉なりとは萬客の是認せらるる所に御座候

**上州澤渡温泉取締所**

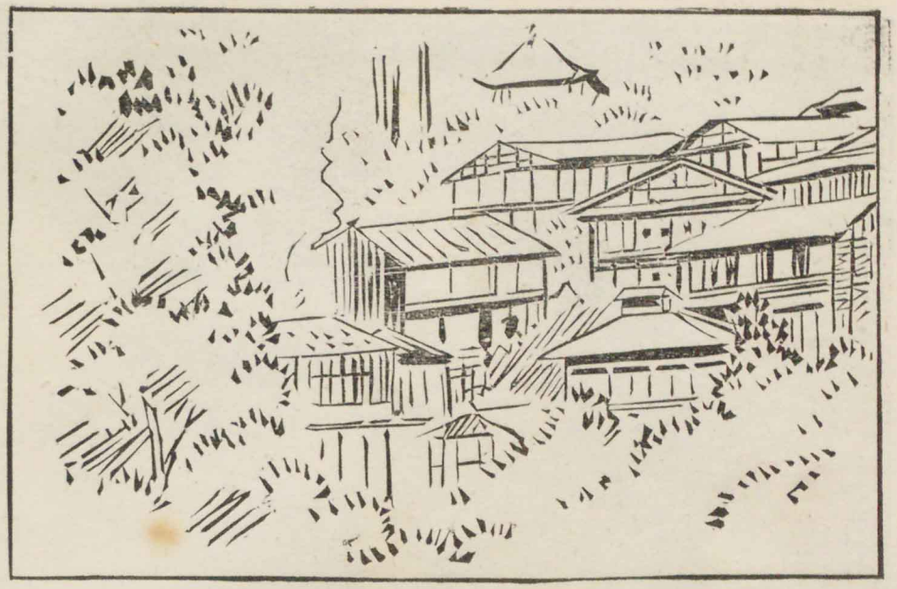


川原湯温泉勝景

久森橋附近の泉

も望む地泉温ゝて隔を道隧森久

景の罕子獅



# 上毛川原湯温泉元

▲海拔二千二百尺、空氣清澄、山蒼く水白く、鳥啼き、花笑ひ、郡中無比の僻境となす、

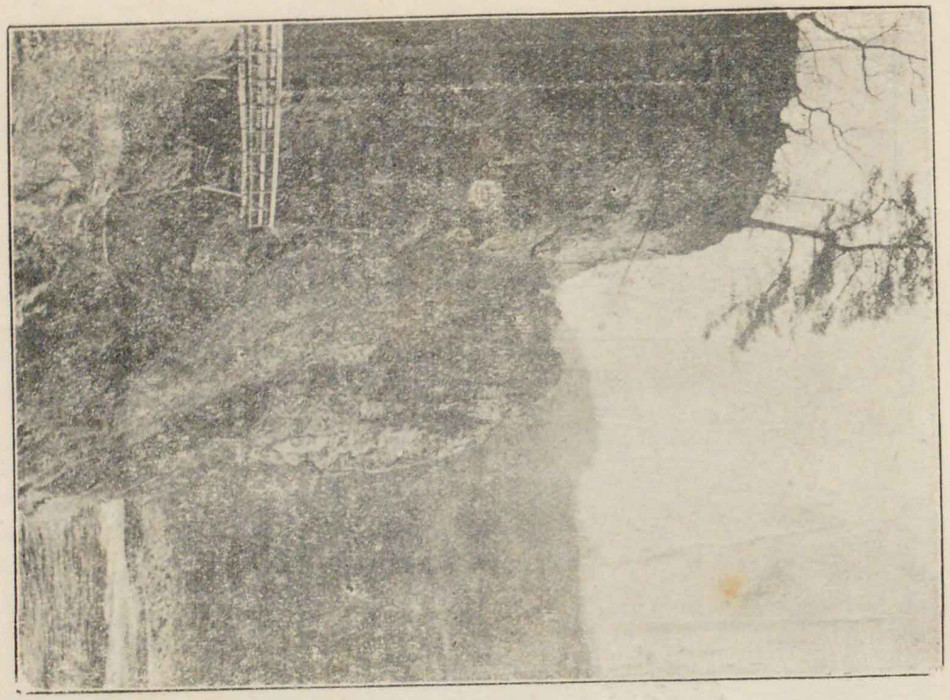
▲泉質は無色透明の硫黄泉にして華氏百六十一の温度を有し慢性レウマチス、慢性皮膚病、胃加答里、線病、子宮病、神經痛等に奇効を奏す

## 敬業館 萩原慎太郎

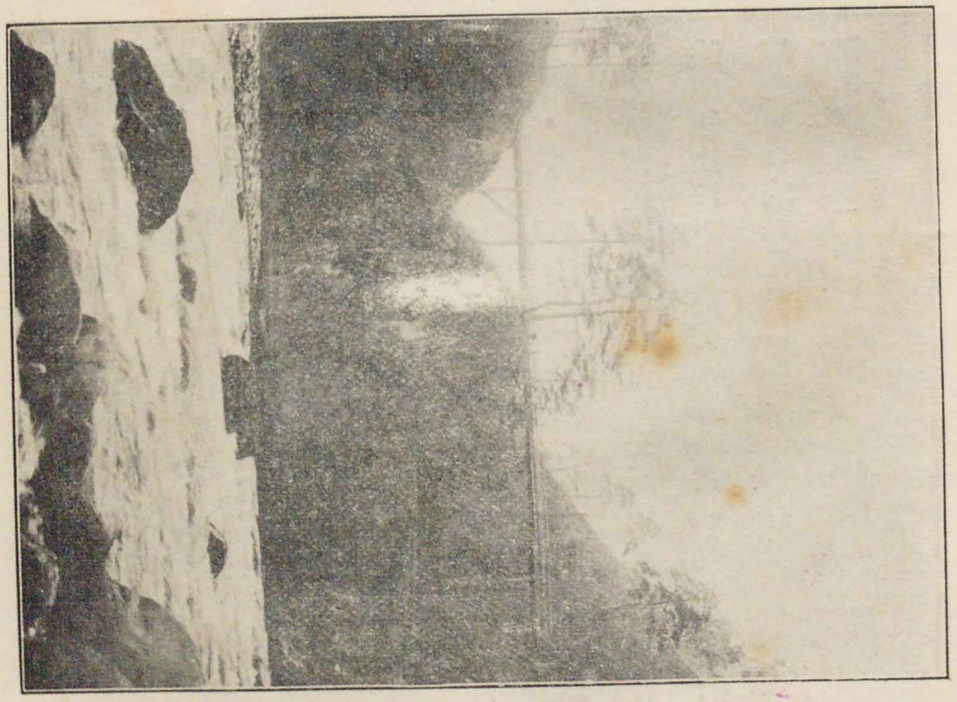
▲滝車は高崎又は前橋にて下車し夫れより澁川まで電車に乘り澁川より人力車又は時間馬車にて東京一番發車の日着は御自由に御座候

▲當館は鑛泉内湯數個の外、皮膚病眼病に特効ある虎の湯の内湯を設け浴客の隨時御入浴に供せり

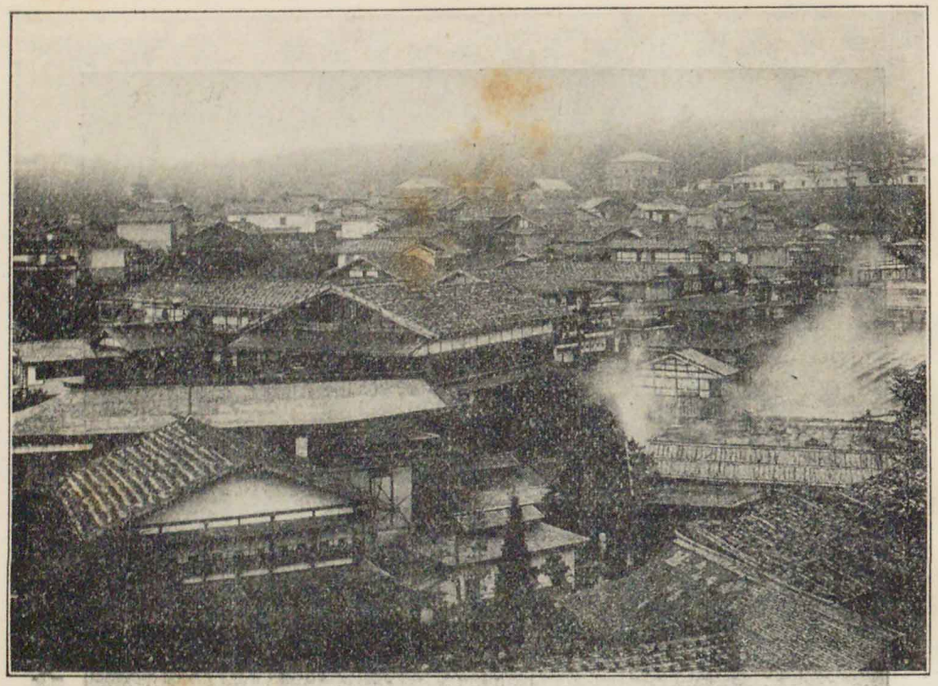
▲當館は高官紳士の御來浴多きことゝて清掃萬端充分の注意仕候



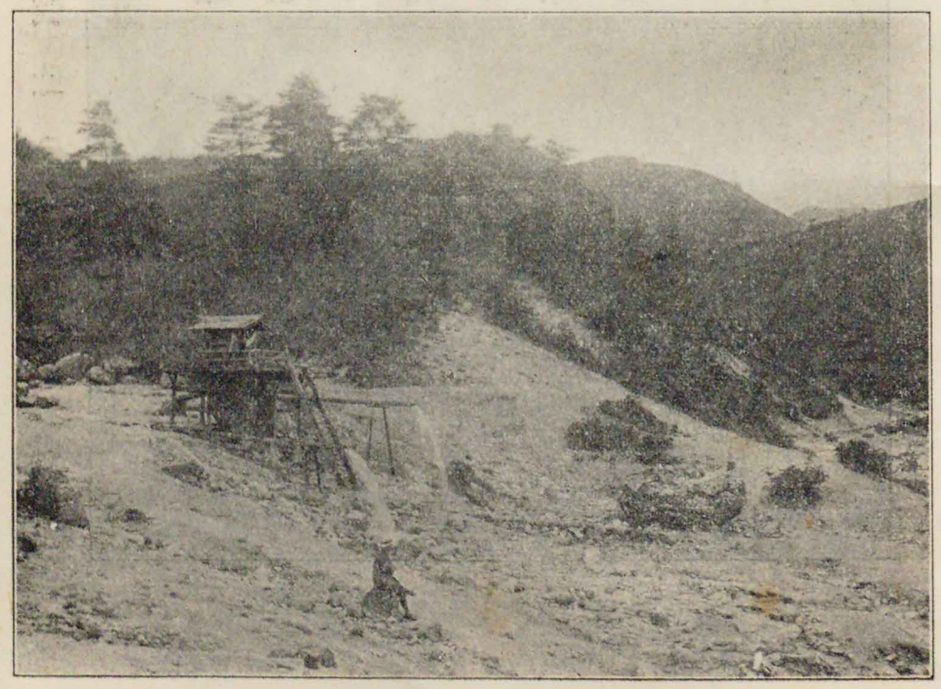
道隧森久 景勝湯原川



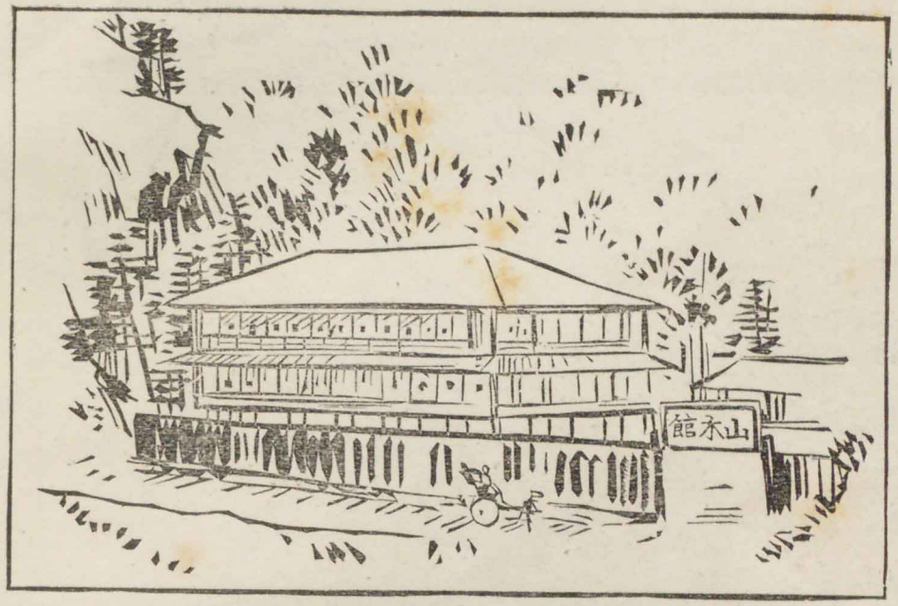
橋天辨堂 横 景勝湯原川



草津鑛泉市街の光景



草津名所西の河原




# 上州川原湯溫泉元

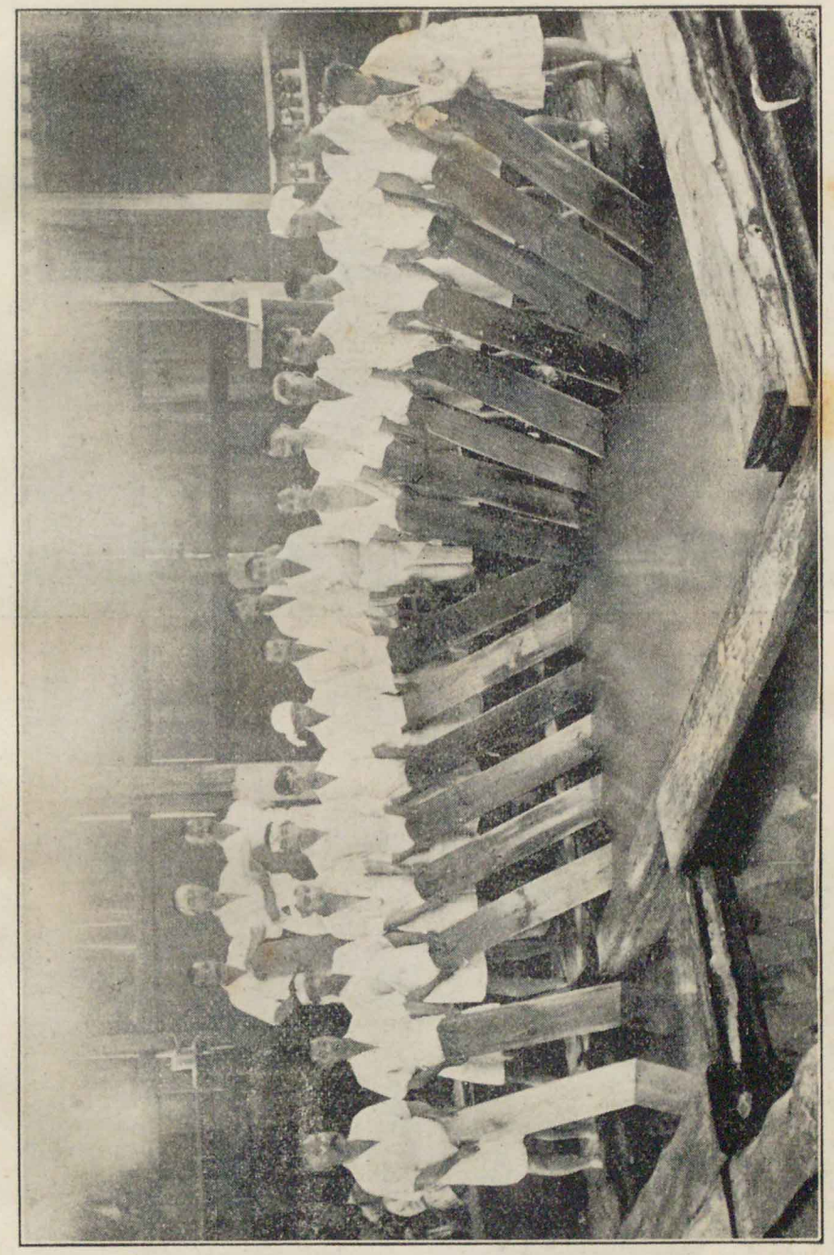
▲當溫泉は吾妻川の沿岸、金鷄山の中腹に位し海拔二千二百尺、土地高燥、空氣清鮮、山紫水明の勝に富む、川原湯八景は實に水彩の活畫なり、避暑靜養の最好適地とす

▲東京より四十里、高崎又は前橋にて下車し電車にて澁川に至り夫れより時間馬車にて優に一日に到着するを得

## 山水館　樋田甚重郎

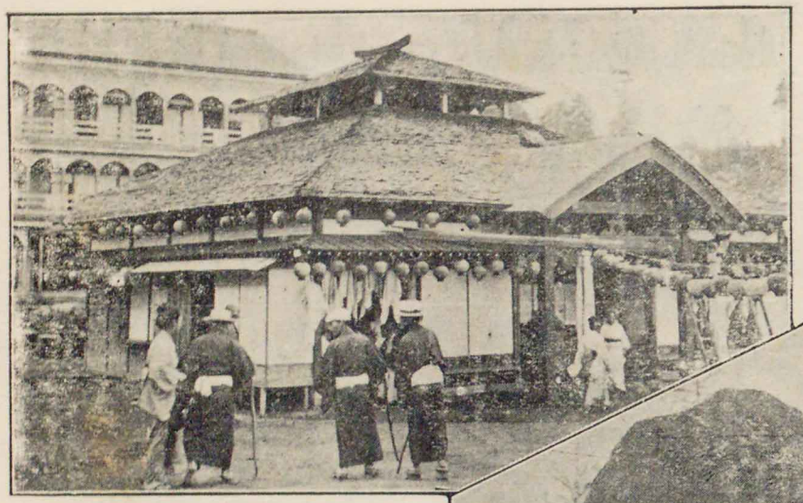
▲本館は當地の入口に位し三層の大客室を有し眺望無比に御座候又内湯の設けありて清掃萬端充分の注意仕候

▲御申越次第「案内記」贈呈可仕候

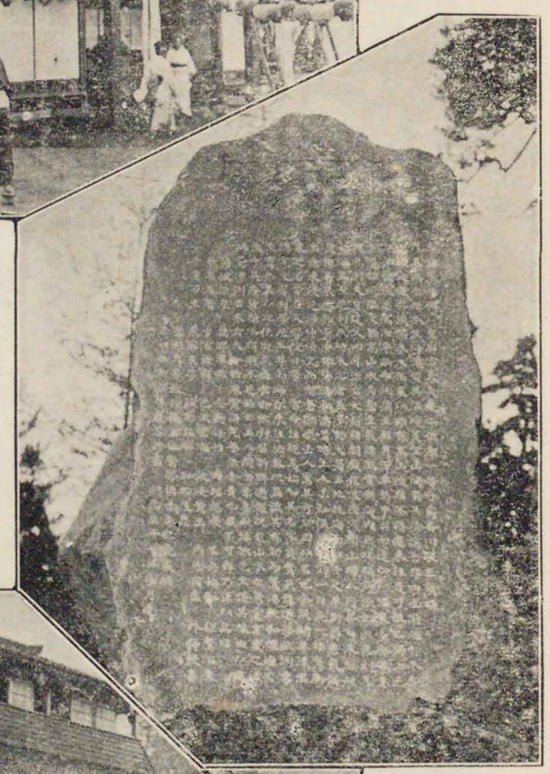


草津鑛泉 湯滝

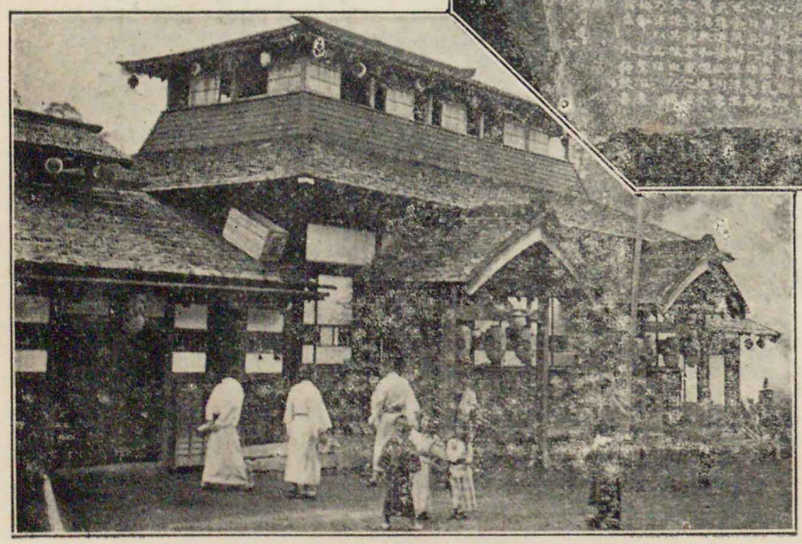
景光の拌攪湯



草津鑛泉熱の湯



鷲の湯碑（在白根神社境内）



草津鑛泉松の湯

草津　大東館　山本與平次第四號客館


# 上州草津一等旅館

## 大東館

## 山本與平次

電話（十八番）

▲本館は市内の中央にして各浴室への御入浴至極便利に御座候

▲内湯數ヶ所の設けあり清掃萬端充分注意仕候

（注意）御申越次第『案内記』贈呈可仕候

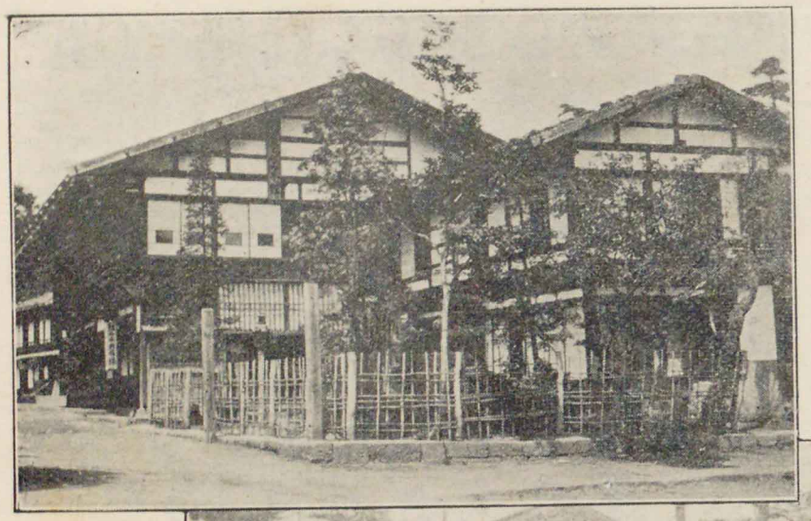
# 上州草津一等旅館

本館は市内屈指の地に洋館を新築し
眺望最も佳絶なり
本館は別館毎に内湯の設あり

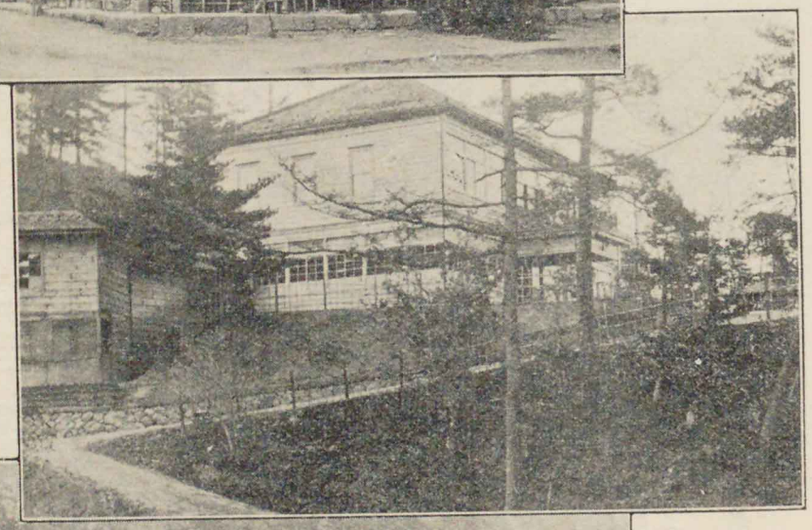
## 白根ホテル　山本館　黒岩誠一郎
## 本店

電話 山本館本店 十九番 白根ホテル 二十番

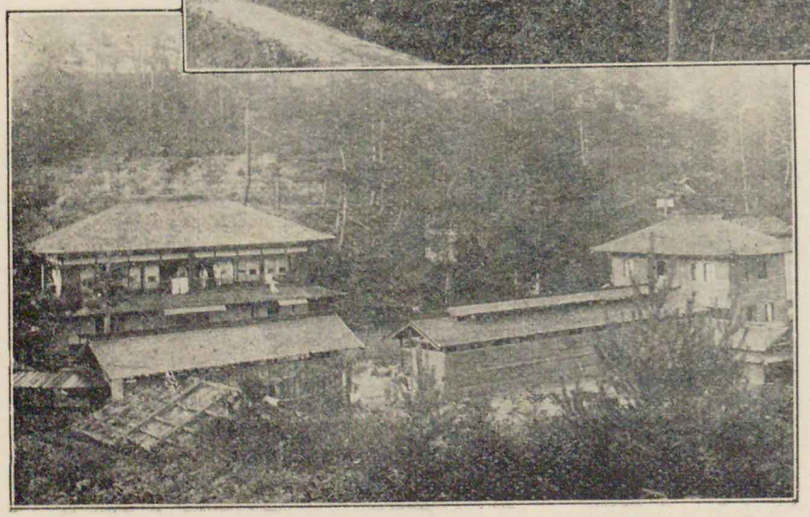
本館はホテルに於て食堂の設あり一般顧客の御好に應ず本館舊山本館樞要の客舍全部を合併し市内中央に本店を構へ時間湯御入浴には最も便利なり本館は赤誠を旨とし精々勉強仕候



草津、山本館本店



同上、白根ホテル



同上、山本館別館

# 上州草津一等旅館

▲本館は市内の中央にして各浴室への御入浴至極便利に御座候

▲「熱の湯」は弊館五號館の最近に御座候

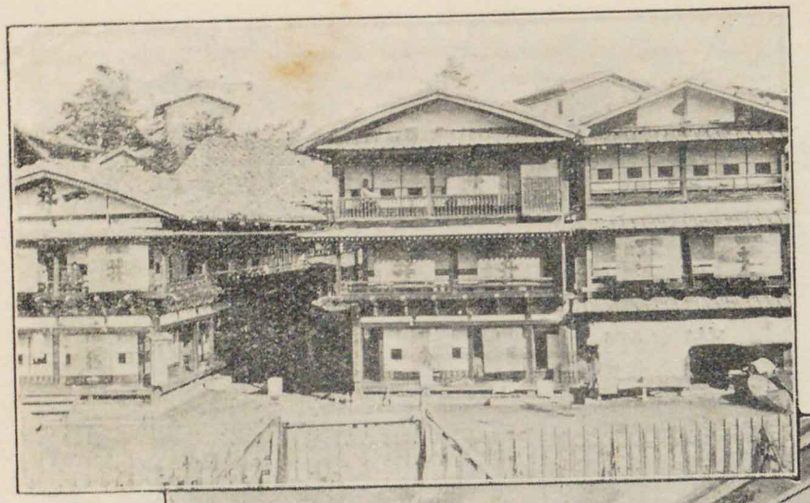
▲辰己館の増築全部落成仕候

▲内湯數ケ所の設けあり清掃萬端充分注意仕候

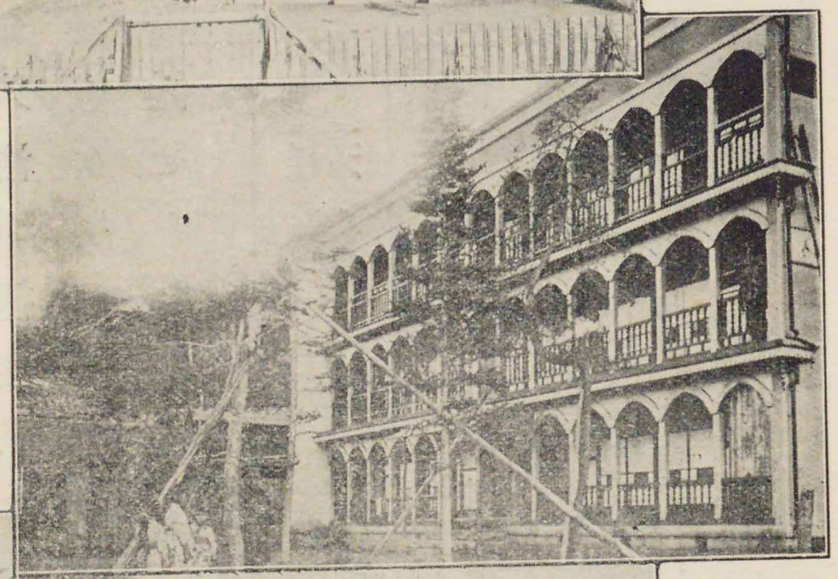
（注意）御申越次第『案内記』贈呈可仕候

一井善三郎

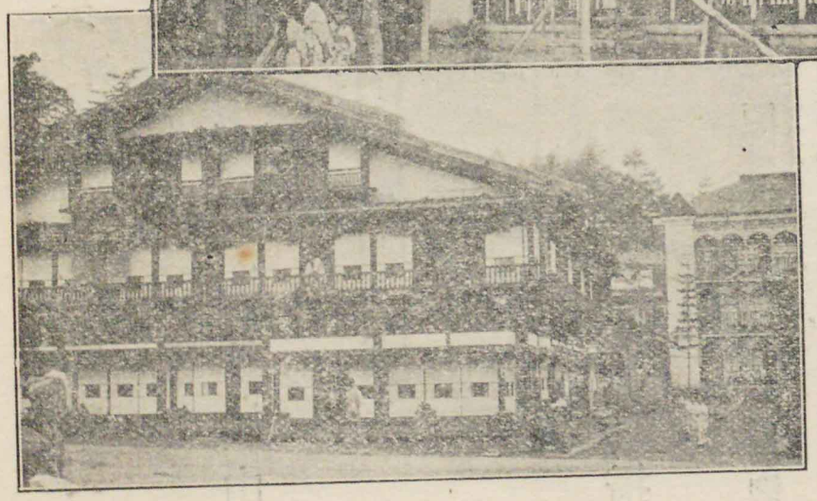
電話（十一番）



草津、一井善三郎本館



同上、五號館



同上、辰己館

## 上州草津一等旅館

# 日新館 湯本柳三郎

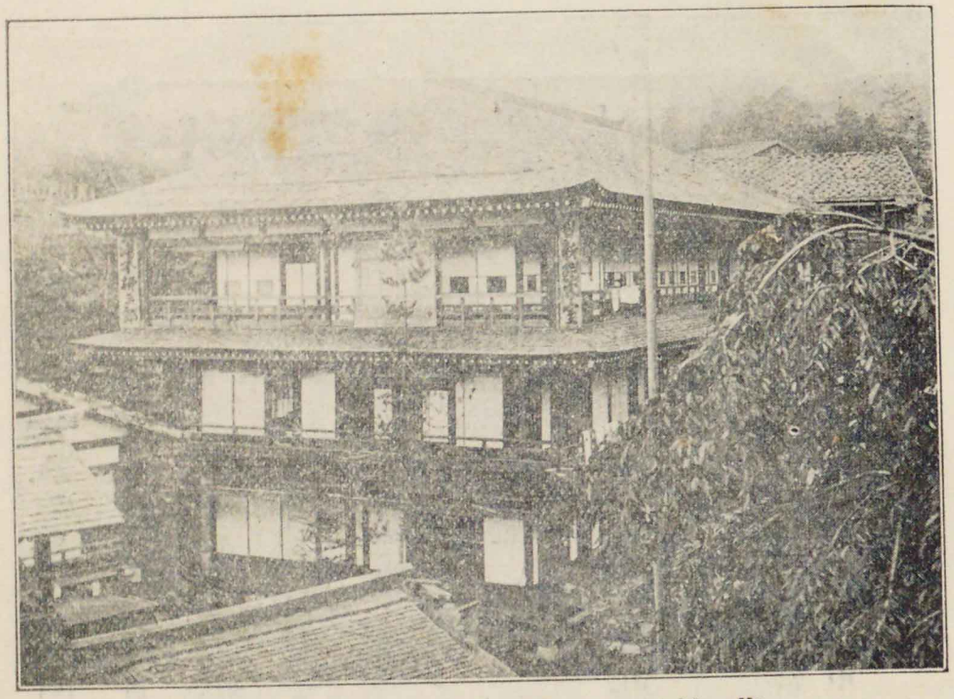
電話（十三番）

▲本館は温泉場の中央にして各浴室への御入浴至極便利なり

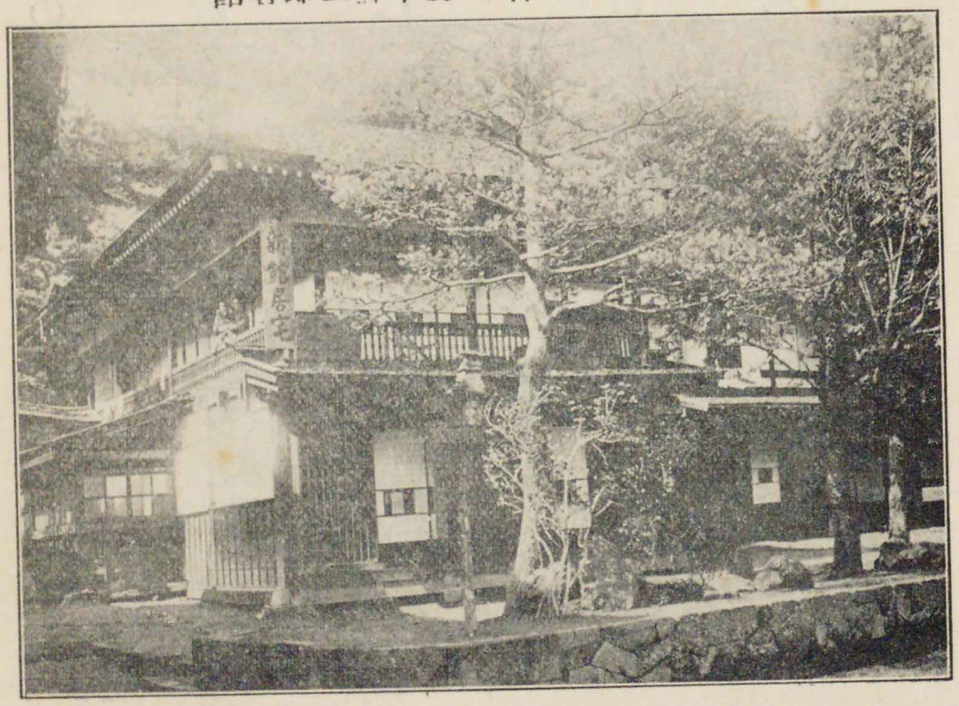
▲内湯數ケ所を設け浴場の温度は自由に高低せしむるを得

▲總て衛生向きの留意を專らとし清掃萬端充分注意仕候

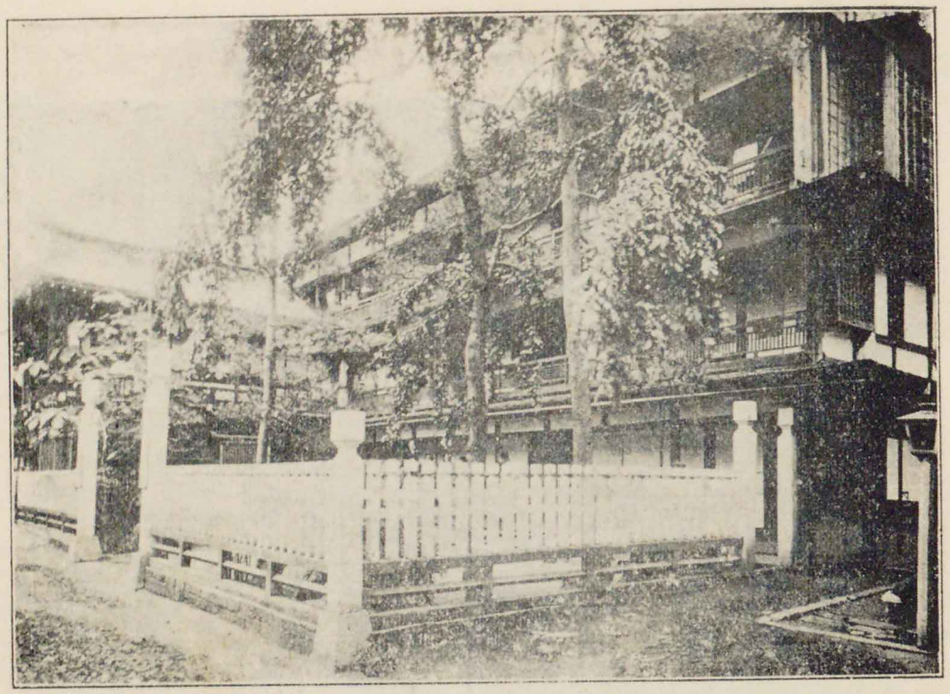
（注意）當温泉の狀況並に道順等御不案内の御方は御申越次第『案内記』贈呈可仕候

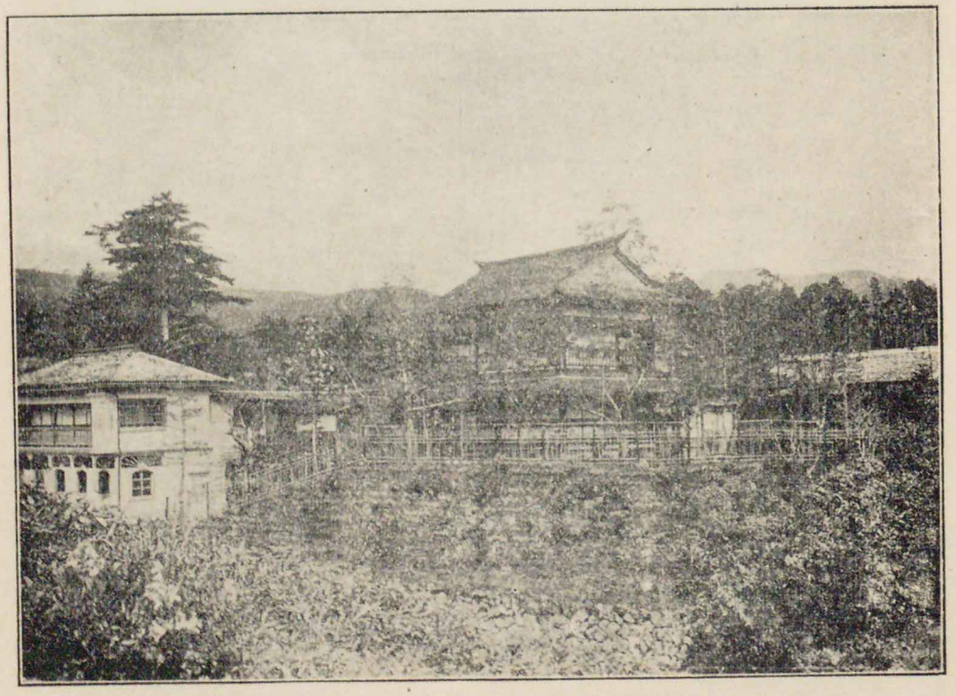
草津日新館　湯本柳三郎客館



同上居宅



草津　長養館　大坂屋市郎次客館



同　上　別　館


## 上州草津一等旅館

▲弊館は市内の中央にして各浴室への御入浴至極便利なり

▲弊館は内湯數ケ所を設け一浴室貸し切りの御好みに應ず

# 長養館　大坂屋

中澤市郎次

電話（本館八番　別館二十三番）

▲弊館の別莊は高雅の地にして空氣清涼、眺望佳絶なり

（注意）當地の狀況御不案内の御方は御申越次第『案内記』贈呈可仕候

# 上州草津一等旅館

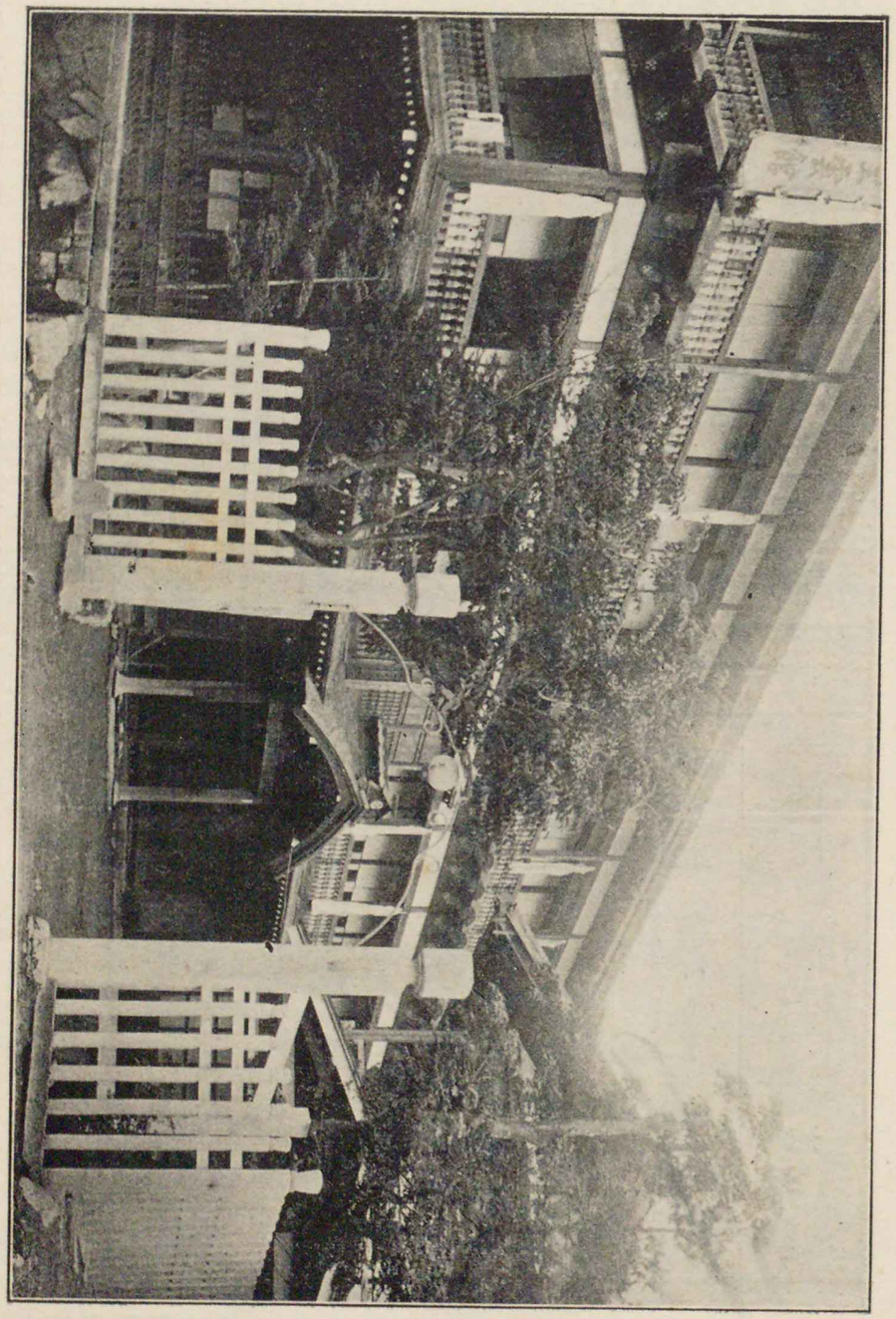
▲本館は市内の中央にして各浴室への御入浴至極便利に御座候

## 望雲館　黑岩忠四郎

電話（十番）

▲内湯數ケ所の設けあり清掃萬端充分注意仕候

（注意）御申越次第『案内記』贈呈可仕候

館客郎四忠岩黑　館望雲　份有　草津

上州草津 勉强旅館

今般左記連名の旅館業者は一大奮發を以て營業仕候間何卒御愛顧の程偏に奉願候

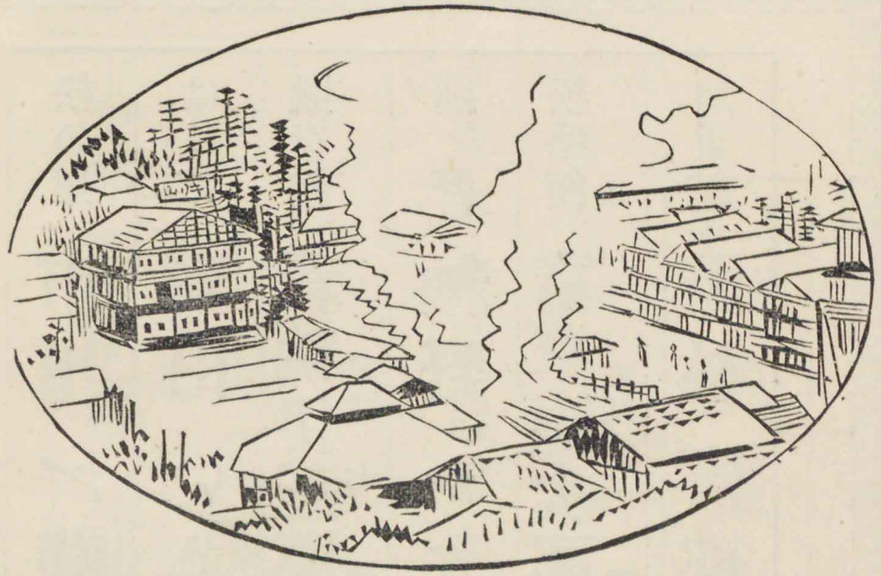
（姓名いろは順）

パンヤ 下宿館
市川金彌 電話六番
市川喜三郎 電話二十五番

彌生館 吉田屋
田村長作
吉田屋惣太郎

松の屋 市川ノ藏
はねだ 羽田いく
凱旗館 新納伊三郎 電話七番
細野 細野かな
松盛館 富永德次郎 電話三番
旭東館 若林壽郎

大屋 山本佐五郎 電話二十八番
山田屋 山本源次郎
山本屋 小林豐吉
きり山 桐山二平 電話二十一番
きり山下宿部 桐山とよ
月の井 湯本登作



草津の中央部眞景

（中央湧源池の左に見ゆる三層樓は桐山旅館）

弊館は市内の中央、大湧源池の最近に候得ば何れの浴室へ御入浴相成候とも最も便利なる位置に御座候

上州草津
勉強旅館
**桐山一平**
電話二十番

弊館は御客様に御費用を懸けぬやう誠實勉強仕りゆる〳〵御靜養相成候やう注意可仕候間御愛顧の程偏に奉願候

---

**草津温泉**

**（松の湯前）**

勉強旅館
**山口幸八郎**

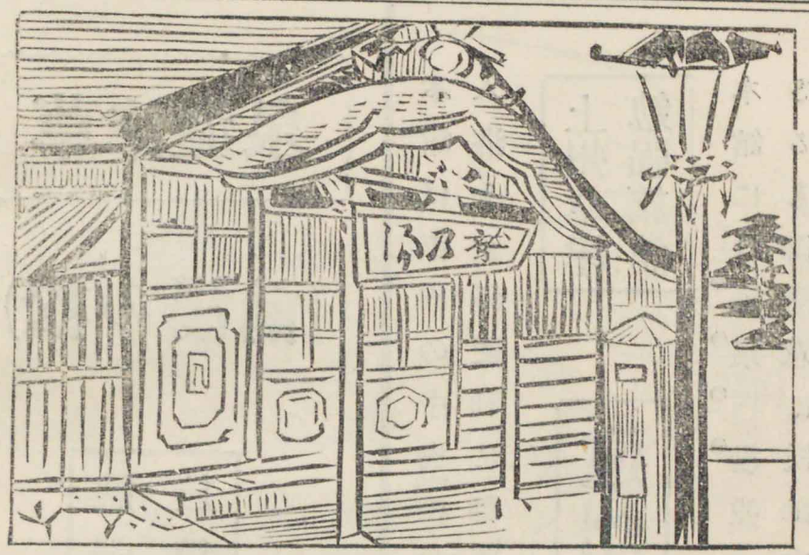
内湯あり

本館は市内の中央『松の湯』の直ぐ前にして各浴室への御入浴も至極便利に御座候

上州草津
勉強旅館
**遠州屋**

本館には鑛泉内湯並に單水の内湯あり何れへ御入浴なさるも御隨意に候（御申越次第畧案内記呈上仕候）

**黑岩定次郎**



鷺の湯浴室外部

弊館は誠實と勉強とを以て多年御客様の御引立を蒙り居候處本年より一層の大勉強可仕候間御費用を節し永く御療浴の御客様には至極御徳用に御座候

又皇國第一の評ある『鷺の湯』へ御入浴なさるには此の上なき御便利に候得ば續々御來宿の程奉希候

上州草津温泉勉強旅館

**鷺の湯前**

旅館 **大屋**

**山本佐五郎**

電話二十八番

内湯あり

弊館は御一宿 三十五錢 より御好に應ず

**鷺の湯前通り**

旅館 **吉田屋**

**吉田屋惣次郎**

---

草津温泉

**皇國第一**
**鷺の湯前**

勉強旅館

てのの字屋

**湯本清曹**

電話 二十二番

---

草津温泉

（鷺の湯前）

弊館は市内の中央にして『鷺の湯』に最も近く他の浴室へも御入浴至極便利に御座候

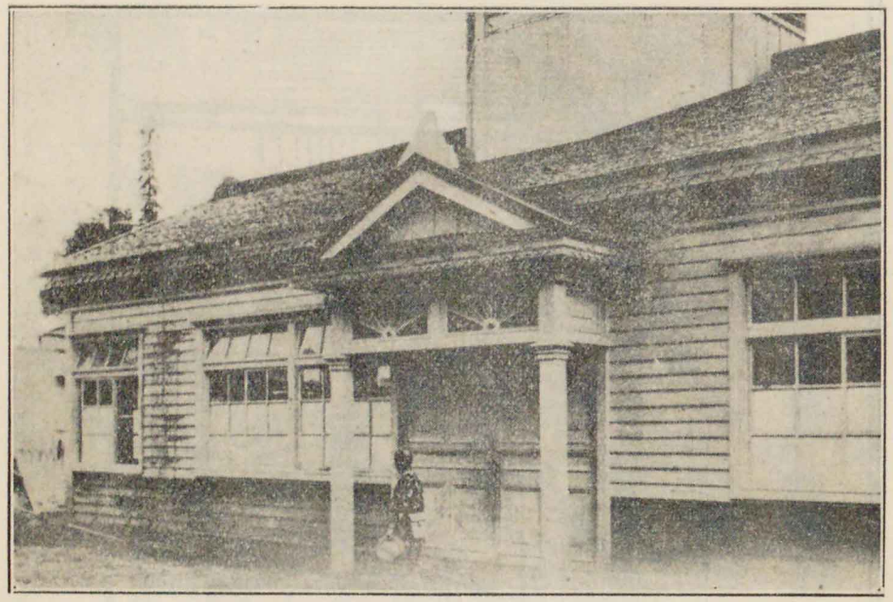
**常盤館**

弊館は内湯並に貸切浴室の設備有之特別大勉強可仕候間賑々しく御來浴の程伏て奉希候

**宮崎武八郎**

電話 十二番
（松盛館富永跡）

地藏の湯全景



地藏の湯浴室外部

# 地藏の湯

當「地藏」は草津温泉場中更に一區劃をなす別天地にして土地閑靜眺望に富み御療浴中の諸費用は最も低減を旨とする事に一同申合せ居候

上州草津

（姓名いろは順）

パンヤ　市川金彌　電話六番

細野　細野かな

松盛館　富永德次郎　電話三番

田村　田村長作

武藏屋

勉强旅館　大津屋　山口榮太郎　電話四番

山田屋　山本源次郎

當「地藏の湯」の浴室は草津五大時間湯中比類なき新設改良の構造にして各旅館は此浴室に接近致居候　何卒御來浴の程右一同より奉希候

## 草津鑛泉

# 鷲の湯最近

勉強旅館

## 松村屋五郎平

▲皇國第一鷲の湯御入浴には最も便利に御座候

▲弊館は御氣樂と安直とを營業の本旨と致し居候

## 草津溫泉

（鷲の湯前）

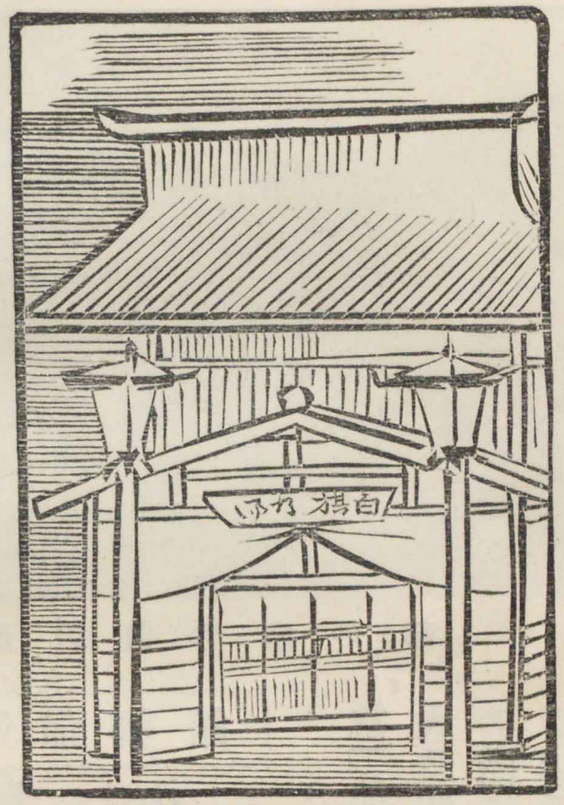
勉強旅館

## 古久長

## 穀屋長藏

●鷲の湯は弊館の隣りに御座候

●御氣樂と御徳用とは弊館の特色に御座候




白旗の湯浴室外部

弊館は御一泊金三十五錢より御賄ひ可仕候間御愛顧奉願候

熱の湯
白旗の湯
前

大勉強溫泉旅館

# 月の井

# 湯本登作

●當温泉は海拔四千六百四十尺の高地にして土地幽邃閑雅、極暑七十五度を超へず全く夏知らずと好避暑地なり

●泉質は炭酸泉にして多量の鐵氣を含む

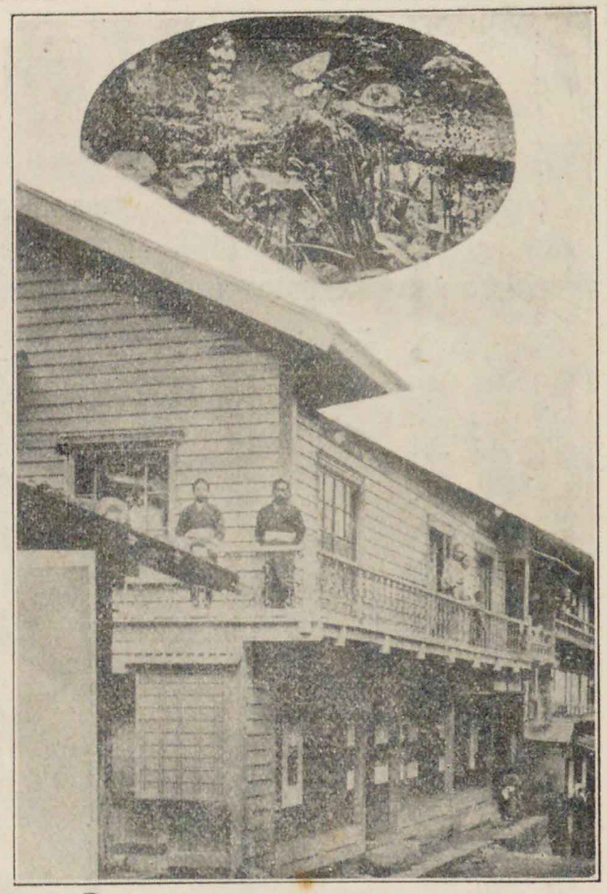
●道順は信越線田中停車場より四里

●本館は温泉場最高の位置にして各室とも眺望最も宜し、玉湯、貸切湯等皆弊館數歩の地にあり

●御一報次第案内書を呈す

△上州吾妻郡鹿澤温泉

增屋旅館　**戸部長十郎**



△上州吾妻郡嬬戀村
鹿澤温泉

**紅葉館**

**小林龜藏**

（御報次第人馬差出し可申候）

當地は海拔四千六百四十尺にして風光閑雅加ふるに温泉の滾々たるあり洵に人寰を離れたるの僊境なり殊に蚊蠅の襲來なく山には高山植物の豊富なるあり避暑地として亦た氣候養地として無二の樂園なり

弊館茲に見るあり客室を增築し娯樂室、寫眞暗室及び高山植物園等を設け浴客の慰安を求むるを專らとせり

## 上州吾妻郡

### ◉鹿澤溫泉◉

△當溫泉の泉質は炭酸泉にして多量の鐵氣を含めるを以て胃病、腦病、神經衰弱、貧血病、産婦人等に奇効を奏せり

△當地は海拔四千六百四十尺にして日本一の高地溫泉なり

△信越線田中驛より四里、東京一番發車は日着容易なり

### ●鹿鳴館　宮崎彌太郎

△本館は當地第一の眺望を有し空氣の流通最も宜し

△本館は專ら勉強を旨とし誠實懇篤を以て萬端充分の御注意可申上候間何卒御愛顧の程偏に奉希候

△御申越次第委細御案内可申上候


## 目次


小引

吾妻郡

●吾妻の名稱
●三原狩
●地變
●古城址
●岩櫃城址
●岩井洞

吾妻川

吾妻郡と溫泉

道案内

●第一順路
●第二順路

吾妻五湯巡り

(其一)四萬

▲溫泉の起源、沿革及び現狀
▲溫泉分拆並に効用
▲入浴の心得
▲勝地
▲文苑
▲雜纂

(其二)澤渡

▲溫泉分拆並に効用
▲入浴の心得
▲勝地
▲文苑
▲雜纂

# 目次


（其三）川原湯
▲温泉分析並に効用
▲入浴の心得
▲勝地
▲文苑
▲雑纂

（其四）草津
▲温泉の起源、沿革及び現狀
▲鑛泉分析並に効用
▲入浴の心得
▲皮膚の糜爛
▲浴醫局
▲新設の洗湯
▲勝地
▲文苑
▲雑纂

（其五）鹿澤
▲温泉分析並に効用
▲入浴の心得
▲勝地
▲文苑
▲雑纂

略地圖


（目次終）

上州

# 吾妻五湯案内（改訂再版）

▲四萬 ▲澤渡 ▲川原湯
▲草津 ▲鹿澤

著者 島田齊胤

## 小引

太古人文未だ開けず蒙昧無智の世に在りては百般の事物宇宙の自然に據りしこと勘しとせず、例へば人の病めるあらむ耶、即ち往て澡泉に自然の療浴を執り或は匝匝たる青巒の大氣に嘯きて以て治病の目的を完納せし者の如し、中古に迨んで人智漸く開け藥餌を發見して其の奇効を認むるや昔日の自然療法を冷視し延て近世及び當代に至り學理の研究ます〳〵旺んなると與に藥餌の化學的療法いよ〳〵其の神秘を極むるに至り復た往古の自然療法を説く者なきに至りぬ。

闘らざりき最近十九世紀の末葉に當りて理學療法（所謂自然療法）の眞價は歐洲の專門學者に籍て提唱せられ、温泉療法、氣候療法、日光療法、及び轉地療法等の治病的効果は最も確實に認證せらるるに至り理學的療法の聲は日を逐ふて益々大ならんとす、眞に快感に堪へざるなり、殊に温泉療法の如きは地軸より噴出する『ラヂウム』と其の空氣中に含蓄する『イマナチイオン』との關係を以て奏効殊に顯著なる者なるべきことを探り得たるに至つては吾人は深く學者の勞功を多とすると與に亦た最も天與の惠澤の廣大なるを感謝せざる可からず。

理學療法の隨一なる者として温泉療法の眞價既に世に知らる、吾人は更に進で其の應用を怠ることなく從來藥餌の化學療法にのみ倚賴して病舍に呻吟せし姑息の療法を排斥し以て大に斯法の實行に當らざる可からず、是れ所謂天地萬物宇宙の自然に歸するの大本にして百年不治の難患も是に因て攘はれ惡疫癘瘴も威を振うに由なからむとす嗚呼亦た快ならずや。

我國温泉の多き世界其の比を見ず、殊に天景の美これか四周を飾れるあり洵に自然の一大公園なりと謂うべし、就中吾が上州の如き殊に其の吾妻郡の如き温泉の數に於て將た其の奇景に於て與に天下に冠絶す、矧んや其の理學的療養地として天下また比類なき者あるに於てをや四時浴者の蝟集するもの豈夫れ故へなしとせざるなり今此の冊子を草するに方つて努めて本郡の事蹟を盡さんと欲するも紙葉限りあり且つ是れ本書編纂の素志に副はざる者あるを奈何せん、故に茲に多言を贅せず、唯その梗概を左に抄錄して以て周遊者の一考に供する事とはなしぬ。

## 吾妻郡

和名抄、阿加豆末と注し三郷に分つ近時は群馬、利根の二郡に分劃して境堺を立つ、面積七十三方里、町村廿四、戸數八千五百、人口五万餘、首部を中の條町とす、上

古の東國と云ひしは此の地一帶の總稱なりしとぞ

史乘を閲するに景行天皇四十年倭武尊東夷征伐の歸途烏居峠（當時碓日現今碓氷と書す）に登り橘媛を追悼して吾嬬者耶と宣びしより以東を東國と稱し後ち此の地を吾妻と稱するに至れりと

名跡誌に烏居峠は吾妻屋山の山路なり大笹、田代の奥てに信州大日向へ踰ゆる路なり、石の烏居、石の祠二座ありて日本武尊、弟橘媛を祀り吾妻權現と稱へ奉る此嶺は則ち日本武尊の踰へ給ひし所にして往古は總て峰續き此の邊までを碓日（今の碓氷）と稱へしを日本武尊の吾嬬者耶の御言ありしより吾妻と稱うることとなれるなるべし云々。

▲三原狩　東鑑、曾我物語に曰ふ『建久四年八月上野國三原の狩座あり右幕下頼朝三原の野を狩らせ給ふに空かき曇りければ梶原源太景季取り敢へず

朝間こりきのふはふらめけふはまた

みはらしたまへ夕立の神

やがて霽れぬれば頼朝公御感斜ならず碓氷の麓に五百餘町を源太に給ふ、又狐北をさして奔る、誰か仕ふまつれとあれば

夜ならばこう〳〵とこそなくべきを

朝間にはしる畫狐かな　武藏國住人　横山黨愛甲三郎

と詠進に及べば公また御感ありて松井田の邊り三百町を給はりしぞ

三原野は淺間山の裾野六里ケ原と白根山の裾野と相合して一大平野をなす所なりと云ふ

▲地變　富士火山脈に屬せる信州淺間山の爆發は遠く三十餘里の外に其の災害を及ぼせしと古書に載する所なりしが人皇四十代天武天皇十三年始めて淺間山灰を

降し草木皆枯云々、夫れより近世天明三年七月の變に至るまで前後殆ど數十回、災害の程度固より一ならずと雖も就中天仁元年、享祿四年、慶長元年、及び天明の數回を以て其の最も峻烈なるものとす、殊に其の天明の激變に至つては今茲に多く述ぶるを好まず、纔かに古書の一節を抄して以て地變の全豹を蔽はむとす

淺間山大變畧記　或は石礫を飛ばし黑灰を降らし熱砂を雨らし熱泥、熱湯を沸騰し或は火を發し溺るるもの死するもの慘憺たる光景筆の及び盡す所にあらざるなり、吾妻郡中にて死人の數實に四千七百餘人、家屋を燒かれ又は流されたるもの六百九十軒、牛馬の數は擧て數ふるを得ず、其の甚しきに至りては全村流されたるものあり云々、又石礫泥土六里ケ原を滑り下り吾妻川へ押し出し利根川に至るまで其災害を蒙れり云々

（古今集）　雲はれぬ淺間の山のあさましや
人の心を見てこそやまめ



（拾遺集）　いつとてか我戀やまむ千早振
あさまか嶽の煙たゆとめ

『編者曰、火山破裂の爲め不時の災害を遠近に及ぼすこと古來其の例し尠なからず然れども這は活火山の一時休息せるもの或る動機に觸れて爆發し鬱勃だる多年の內憤を最も嚴酷に外部に迸出するものなれば活火山の休息こそ實に恐るべき者なりかし

然るに彼の淺間山は現時盛んに噴煙して活火山の本體を表し居れば此の噴煙の休止せざる限り火脈を同ふせる吾が白根と共に決して爆發の虞れなきものなりとは地質專門學者の齊しく唱道せらるる所なれば吾妻地方の各溫泉に澡浴を試みらるるの人士

は宜しく安心して可なるべし

▲古城址　吾妻は天嶮の地、又隨て元群雄割據の所、此の故に日に劍戟を事とし傷けば即ち草津の温泉に療浴せしものならむ乎、草津町の某氏左の古書を珍藏し居れば參考の爲め玆に掲ぐ

武田氏下知書

自來六月朔日至于九月朔日草津湯治之貴賤一切停止之畢近邊之民依干御訴訟如斯被仰出候者也仍如件

跡部大炊助奉之

永祿十年丁卯年五月四日　印　　三原衆

此の下知書は當時の實相を探るの好材料なるべし、樞密顧問官細川潤二郎氏は曾て此の書に左の一言を附記せらる

室町氏末上野爲群雄必爭之地武士就草津温泉療瘡痍者多暴武田氏依村民請下令逐客此書即是蓋方爭亂之世則我輩固不得來浴於此而村民亦無以浴爲生可見我輩與村民共是浴於昇平之澤者非浴泉之澤也

癸未八月書於草津客次

細川潤

（古城址）

| 名稱 | 天正前城主 | 位置 |
|---|---|---|
| 岩櫃城 | 吾妻氏 | 原町大字原町 |
| 大戸城 | 大戸氏 | 坂上村大字大戸村 |
| 嵩山城 | 唐澤氏 | 伊參村大字五反田村 |
| 根古屋城 | 浦野氏 | 岩島村大字三島村 |
| 羽根尾城 | 羽根尾氏 | 長野原町大字羽根尾村 |
| 白狐城 | 長尾氏 | 伊參村大字五反田村 |
| 根古屋城 | 新卷氏 金子氏 | 東村大字岡崎新田 |
| 伊參城 | 伊參氏 | 中之條町大字伊勢町 |
| 反町城 | 眞田氏 | 同　大字中之條町 |
| 寄合城 | 寄合氏 | 東村大字箱島村 |
| 打出城 | 秋間氏 | 原町大字川戸村 |

▲岩櫃城址　中之條を過ぎて里餘、原町の西にあり、吾妻諸城址中の冠たるもの全山の巖嶂天然の城廓を築きて堞壁塹濠自から備はり要害無比の堅城となす、建久以來吾妻氏之に據りて覇を遠近に稱へ威勢大に振ひしも、永祿年間葬皷堂々武田の寄手に抗する能はずして刀折れ矢竭き遂に信玄の爲に亡ぼされ、千古の恨みを呑んで一族茲に刎死せるの跡なりとす。巖頭の老松轉だ當年の狀を偲ばしめて行き交ふ人の袂を潤はしむるも亦た多少の夤緣なしとせず

上野志　原町の西に岩櫃城址あり建久以來吾妻氏之に居たり、其の滅ぶるに及び下河邊行家代りて吾妻氏を冒す、其孫行盛碓氷郡の里見氏と兵を交へて敗れ自刎して死す時に其子千王丸猶幼なり、纔かに重圍を脱し榛名山の僧房に隱る長じて上杉憲顯に謁し名を憲行と命せらる、後舊臣を集め兵を擧げて里見氏を討ち父の仇を復して岩櫃城に入ることを得たり、傳へて五代の孫、基國に至り幕賓海野能登守に追はれて越後に走る、能登守之より沼田城主眞田昌幸の命を以て之を守り



元和二年廢毀せらる

羽尾記、羽尾入道三男海野能登守は永正五年卯誕生、天正七年卯十月廿二日七十三にて死す、此能登守强弓を引き荒馬を能く乘り新當流の兵法を能くし力百人に超へ勇猛の士なり、武田信玄及び勝頼に仕へ七十に餘り生國上州吾妻に歸り居れり、其頃岩櫃城には上杉景勝より齋藤攝津守と云ふ者を城代とす、能登守が武勇絶倫なるを聞き招て客人として振舞本城の裏に居城をこしらへ入れ置きけり、然るに能登守父子或る年の正月二日攝津守方へ行き、舊冬珍らしき刀を得たり見給へとて氷の如くなる刀を拔出し攝津守の顏をさも憎くさうに指出す、攝津守此分野を見てあはて驚き酒杯を捨て追て見參せんとて內所に入ると見へしが裏門より退出し越後をさして落ち行きけり云々

▲岩井洞　又岩井堂と書す、村上村の西にあり巨巖巉峭吾妻川の清流に臨んで一大城廓を形れり崖壁の庵に佛堂を建て觀世音佛を安置す、岩井洞は磐居堂の誤り

ならんかと云へり、千狀萬體の奇巖或は錐の如きあり鑿の如きあり將た鉾の如き鏃の如き殆ど名狀すべからざるもの此の地の勝なりとす、若し夫れ秋風一陣吾妻の山峽を撼かして萬葉爲に絢爛の衣を着くれば山洞の錦繡脚下の枕水に搖映して風色畫くも成らず實に吾妻沿道屈指の名所なりとす

上野志、村上村の西に嶮岨の峯巒あり、其南は吾妻川の淵に臨む、淵に添ひ一條の通路あり古へ此所を以て白井の關門とし子城を置きしなるべし、元龜三年武田信玄岩井洞の保障を敗る云々

## 吾妻川

源を信濃の烏居峠に發し東流して群馬縣に入り長野原にて入山川を容れ鄕原にて大戸川を容れ中の條にて山田川、名久田川を容れ澁川の邊り白井に至りて利根川に會す、其間實に十有六里餘、吾妻郡中の一大壯觀なるものとす、然して其の本郡に入るや、鹿澤、草津、川原、澤渡、四万、其他十餘ヶ所の温泉は流れて此の河水に注入するを以て魚族の棲息するを許さず眞に精進川とは之れ是を云ふなるべし

兩岸の巒峯或は高く或は低く奇巖怪石突兀として松籟の天籟太古の聲韻を傳へ自から神仙の境に遊ぶの思ひを起さしむ、然して其の最も幽邃にして且つ最も奇景に富めるを猿橋附近より道麓神を經て川原畑に至る約一里の間なりとす、此の間は彼の耶馬溪に於ける柿坂より口之林に至る絶勝二里餘の奇景とも見るべく、峽谷漸く狹ふして兩岸の鬱蒼、陰愈々暗く、巖脚低く水に盛りて壁の如く屏風の如く右に折れ左に屈し恰も河流を沮まむと欲する者の如し、此の故に水勢は愈々猛りて匂々嵯々地軸を

震ひ、激してに急湍と成て淼々として巖角を撲ち、澱みては蒼淵と成て漾々として碧潭を湛ふ、巖頭の翠松爲に影を蘸して小禽水底の梢に躍り、無數の飛瀑溪流は鏘々淙々各々特伎の曲を奏して以て大觀の善美を補成彩色する者の如し、其の千變万化愴絶快絶の實況到底筆紙の能く盡す所にあらざるなり、若し夫れ山陽頼先生を地下に起して此の實景を見せしめば、先生は双手を擧げて必ずや言はむ「嗚呼天下の絶勝は吾妻川にあり焉」と云ふことを。要するに吾妻川の風景は總て是れ神秘の活畫なり、到底予輩の鈍筆を以て其の一端をも寫し能はざるのみならず、却て鬼神の斧鉞に成れる妙工を傷くるの咎めあらんを懼るるなり、故に多くは言はず、覽る人之を宥せ

## 吾妻郡と温泉

抑々温泉湧出の原理は、雨水の地層に滲潤して地底の火山巖に達するや冷水は茲に沸騰して熱湯となり、地下の可溶性成分は爲に溶解せられて地上に噴出す、故に其の地層に含蓄する鑛物の種類に依て各々特異の温泉を湧出すと云へり、されば我國火山脈の多き、西岸火山脈は中央火山脈に並行して白根、淺間に至り富士火山脈に合同するものなれば、其の火脈の伏在する所、吾が吾妻郡の如く多數の温泉湧出するもの蓋し偶然ならざるなり、今、本郡中に於ける有名なる温泉のみを擧ぐるも實に左の十餘ヶ所を算へり

▲草津　▲川中　▲應德温泉
▲澤渡　▲鳩の湯　▲尼アキ温泉
▲四萬　▲萬座　▲ヌル湯
▲川原湯　▲花敷　▲馬洗井戸温泉
▲鹿澤　▲松の湯　▲香草温泉

以上は温泉場としての設備十全なるもの及び較や整頓せる者のみを擧げしに過ぎざ

りしと雖も此の外、未だ全く浴室の設けなきもの或は河畔山際に噴湧して敢て顧みざる者等を合すれば其數實に三十餘ヶ所にも及ぶと云へり、寔に夫れ吾妻は天與の病院なる哉

爾り而して之等の各温泉は皆其の性質を異にし隨て各々特趣の奇効を奏するものなれば、此の温泉に遊びて或は病を醫し或は神を養ひ氣を暢べ鬱を散じ以て天壽の完きを保ち得るもの歳々年々幾萬の多きを算うるに至れり、殊に近來衛生思想の發達と與に大に温泉療養の有効を認め、通路の便亦た隨て疇昔の感を留めざるに至りしかば此の温泉地の繁榮は蓋し將來測る可からざるものあらむ乎

抑々温泉療養の有効なるは其の温泉と空氣中とに含有する成効分の作用に基づくものなることは今茲に喋々の辯を竢たずと雖も、而も此の温泉療養の有効をして愈々大成ならしむるものは、實に氣候療法と精神療法とにあることを憶はざるべからず

此の氣候療法は所謂黄塵萬丈の都門を去て綠滴る樹蔭に清澄なる空氣を呼吸し、青



山の大氣に全身を浴せしむるものにして肺肝の鄙清之に過ぎたるはなし、精神療養亦た爾り、平日己れの執れる業務は錯節糾紛常に腦漿を刺戟して一刻の慰安を與へず、齷齪塞々日尚ほ足らざるも、一度び滊笛の聲に熱鬧の都門を辭して僻境の温泉に抵れば、努めて己れの心を愉快の門に導き、世事に思ひを馳することなくして虚心坦懐、或は碁を圍み將棋を鬪はし書畫を談じ華道を說き大に快感を寛めざるべからず、而して或る時は郊外に散策を試みて景を趁ひ花を尋ね詩を吟し歌を唄ひ以て積日の鬱を散ずべし、之れ實に前述の氣候療法と相竢て温泉療養の奏効をして愈々完たからしむるの大本なりとす

## 道案内

### ▲第一順路

東京方面又は長野、水戸、宇都宮、方面よりの人々は高崎又は前橋にて下車し夫れ

より澁川まで電車（前橋ヨリ四里高崎ヨリ五里）に乘り以後は馬車、人力車自在なり但し東京又は水戸、宇都宮方面の人々にして妙義山及び碓氷峠の紅葉などを探りて輕井澤通りより草津の温泉に赴かんとせらるれば必ず高崎驛にて下車し夫れより信越線に乘り換へて妙義は松井田、碓氷は輕井澤にて下車せらるべし但し磯部鑛泉に一浴を試みんとせらるれば松井田の手前磯部驛にて下車せらるべし（磯部鑛泉場はステーションより三丁）

澁川より四萬へ九里、澤渡へ八里、川原湯へ十里、草津へ十五里、鹿澤へ二十里、馬車賃一里拾貳錢（中之條より先きは一里拾參錢）人力車賃一里十五錢以上廿錢位なり

## ▲第二順路

東京又は水戸、宇都宮方面の人々にして磯部鑛泉、妙義山、輕井澤等の諸景を探り鹿澤温泉へ赴かんとせらるゝ者は第一順路の如く必ず高崎驛にて信越線に乘り換へ信州田中驛にて下車せらるゝを最も便利なりとす

（田中より新張まで一里、新張より鹿澤温泉へ三里、此間徒歩又は乘馬をよしとす鹿澤より草津へ九里、通路よろし（卷末畧圖參照）



## 吾妻五湯巡り

吾妻郡内に數十の温泉湧出することは既に前に述べたるが如しと雖も最も有効にして且つ最も浴場設備の完全せるもの及び交通機關の十全なるものは四萬、澤渡、川原湯、草津、鹿澤の五ヶ所（所謂吾妻五湯）は互に地の理を占めて各々特意の風景と温泉の特徴とを有し且つ高山植物、昆蟲、鑛物等の豊富なるより啻に温泉療養地として浴客の群集するのみならず學術研究者の往訪頻繁なりしかば先年草津馬車株式會社の設立を見、澁川以北の交通最も便利となりしが今又高崎、前橋より澁川までの鐵道馬車を電車に更め交通至便となれり、尚本年中には澁川より中之條まで鐵道馬車敷設せらるゝ計畫なれば此方面に於ける將來の繁榮は蓋し想像するに難からざるものあらん

轆轤たる轍の響きは馬蹄の戛々と相應して馬車は澁川の北新道なる停留所を發車すれば二頭の馬首は勢ひよく北に向つて驀進するなり、十數丁にして吾妻川の下流に架せる吾妻橋（木鐵相半す）に至る、橋を超ゆれば鯉澤とて沼田方面と中之條方面とに分岐せる二條の通路あり此の通路を『左』に取りて西方に向へば右に小野子、子持、左に榛名の山々を見、又遙かに吾妻の諸山を前程に望み、吾妻川の清流は或は遠く或は近く急瀨白を湧かし湲流綠を漾へて愈々畫中に導けるの思ひあらしむ既にして村上村の停留所に着すれば此所にて馬を代へ暫時の休憩をなす、此の村上村は彼の有名なる岩井洞（前項吾妻郡の部にあり）の所在地にして頗る風景に富める歴史的の名所なりとす

鐵鞭一擊松晃橋の風景を過ぎて中之條町に着すれば大厦高樓甍を並べ遒かは郡内の



首都たるべく市區整然として郡衙あり學校あり銀行あり會社あり旅舍商店檐を交へて實に吾妻各温泉地の咽喉を扼せり旅館鍋屋、福田屋等最も有名なり

中之條を過ぐること一二丁にして通路に架せる小橋あり（詠歸橋）橋の袂より直角に右に折るる道あり榜して曰く（右四萬、澤渡、草津、左川原湯、草津道）此の榜示は右にも左にも草津の二字を見るものから始めて此の地を踏める人々は少しく其の方向に迷ふことありぬべし、這は右折するも左に直行するも同じく草津に行ける者なるも右は四萬、及び澤渡を經て草津に赴けるもの、左は川原湯を經て草津に向ふものなれば此の經路は須らく巡遊者の氣隨に任すとし、今は唯案内の順序として此岐路を右に取り則ち四万方面に向ふこととはなしぬ

四万は中之條を距る四里强、四萬川の清流を左にして、麥隴桑圃の間に通せる一條の坦路を進み行けば川の對岸に蟠屈せる一塊の巨巖を辷る翁瀧（不動瀧とも云）の眺めあり右を望めば五社天狗とて一團の杉林に包まれたる祠の邊りに雲を凌ぎて待立せる五個

の奇巖あり名づけて五社天狗の屏風巖と云ふ、巖頭に疎生する數多の綠松叅差枝を交へて風趣殊に賞すべく二里弱にして下澤渡村字金原に達す、茶亭あり風景殊に宜し、行路左に分岐す這は所謂澤渡を經て草津へ赴けるの通路にして直道は則ち四萬へ行くもの（是より四萬へ二里餘）四萬の方向を指して直進すれば山水の風趣愈々美にして四萬川の清流右に走り左に駈け巖を嚙み淵に咆へ烏啼き溪應へて殆ど人寰の境にあらざるを覺へしむ、殊に其の澁渡泉の奇勝に至つては彼の日光の含滿淵を偲ばしめ思はず快哉を絕叫せしむるものあり

四萬の清遊を終へて澤渡に赴かんとせば前述の下澤渡村字金原まで逆行し四万川に架せる天然橋を經て聖德皇太子の碑を膜拜し澤渡川の清流に沿ふて進むなり、里餘にして澤渡温泉に着きぬ

夫れより順道を草津の温泉に向はんと欲せば頗る困難なる暮坂峠を經ざるべからず、此の道路は未だ馬車の通行を見る能はずして勢ひ徒步又は馬背の力を藉らざる



を得ず、故に馬車を驅て川原湯を訪ひ、而して後ち草津の温泉に赴かんとせば此所より一段中之條まで引き返さざる可からず、中之條より半里にして原町に達す、原町は一の市坊をなして人煙稠密、旅舍、商店相隣りせり、（旅館原澤樓有名なり）岩櫃山は此の町の西に峙てる嵯峨たる巖山にして往昔吾妻太郎の居城となす（前項吾妻郡の部に委し）岩櫃山の麓を過ざて半里弱、岩島村大字矢倉の道側に古社あり鳥頭宮と稱す、社前に巨大なる杉の枯死せる空洞を見る（周圍三丈餘）空洞の中央に大なる杉の發生して枝葉愈々繁茂せるものあり（周圍九尺餘）風姿最も妙なり、里人之を神木と稱して崇むるとぞ、二里餘にして深き溪流に小橋を架し雁が澤橋と云ふ、此の畔りより右に入る十數丁、川中温泉あり微温湯にして一種の特徵を有し俗に美人湯と稱す、通路よろし雁が澤橋より一里餘にして川原湯温泉に達す、此の間は所謂吾妻川の耶馬溪とも稱する所にして絕景無比の地なり（前項吾妻郡の部に委し）

新大橋を過ぎて對岸の川原湯温泉に遊び又千歲橋（釣バシ）を渡りて川原畑の馬車停留

所に至れば土地廣濶にして郵便局並に茶亭あり（上野屋）此所にて馬車を認め五里の行程草津を指して乘り出せば二頭立ての馬蹄は砂煙りを蹴て吾妻川の沿岸を驀進するなりけり、久森の隧道を過きて數丁、釣橋あり這は川原湯の便道にして最近の新設に繫り千歳橋と並んで當地の双珍となせり、尚甘丁餘にして辨天橋の奇勝あり天然の巖頭を橋臺とし吾妻川の急流に架する所、延長實に五十餘間天景の美を彩れるものと云ふべし、其他横壁の奇巖、丸巖、堂巖等一一述ぶるを得ず、數多の飛瀑溪流は兩岸の巖罅より或は頭上の山際より珠となり璣となりて玉碎を飛ばし指呼應答に邉あらざらしむ、左顧右盻、軈て長野原町に着すれば、此所にて馬を代へ暫時の休憩をなす、（休泊所、大津屋有名なり）是より數丁にして右側に巖山を見る、巖の中部に大なる庵洞あり、中に佛堂を建て地藏尊を安置す、眺望佳絶にして實に沿道の一名所なりとす（土人之を長野原の觀音様と云へり）是より半里餘、大津の字犬塚に至れば通路左に岐る這は鹿澤温泉其他への通路にして直道即ち右方は草津への順路なり榜して是より北草津道西鹿澤道東川原湯道云々とあり（是より鹿澤温泉へ七里强）今は順路として草津道に向ふ事とはなしぬ

半里弱にして大津の字立石に至る茶亭あり（橋本屋）是より草津へ二里、所謂爪先き登りの山徑にして吾妻川の清流は遠く西山の陰に隱れ濁川近傍より問ひつ語りつ十餘里の道程を俱にせし彼れ吾妻川は今や去て跡なく道側の溪流は涓々淙々として偶々錦蛙の鳴く音に耳聽を洗ふばかりなりけり、

盤紆岸蔭里許にして谷所に達す茶亭あり（越後屋）少憩して尚ほ上り行く眼界イヨ／＼濶けて淺間山の噴煙指呼の間にあり、睟を決して雲煙漠々の間を展望せば我が上州の誇りとする彼の三山は淺間の咆哮に會ふて慄れ脚下に慴伏する者の如し、軈て草津の出湯に近着きぬれば一種の硫氣は鼻孔

を掠めて先づ宿痾を攘ふの思ひを起さしめ地形山容目から人世の境にあらざるを覺へしむ

草津の療浴を了へ豫後の防備を要する者は必ず澤渡温泉に赴かざるべからず之れ昔より草津療浴者の掟となり居れる事にして亦た療浴の目的を完納せる天の配劑なりと知るべし（草津より澤渡へ六里　駄馬の便あり）

草津遊浴の後澤渡温泉の天惠に浴するを要せざる者は是より直に鹿澤温泉を訪はざる可らず、开は前述の谷所（草津より一里）まで逆行し此所より右に分岐する細徑に歩を向ふべし白根山の裾野は有名なる高原にして大陸的の眺望に倦むを知らず三里の行程三原に達し再び吾妻川の清流に會す、風景絶美なり、夫れより流れに沿ふて順次大前、大笹を經田代に至る、道路最も宜し、田代の町端數丁にして左側の路傍に榜標あり、即ち鹿澤温泉への岐路にして坦々たる直道は信州上田への通路なり（是より鹿澤へ一里二十丁）

鹿澤の遊浴を終へ吾妻五湯の巡遊了りなば此所より信州田中又は小諸に出で（田中へ四里小諸へ五里）同所より滊車に搭じて東西南北孰れの方行を執らるとも开は筆者東道の責に任せざる可し

以上は吾妻五湯巡りの手引きとして聊か途中の名所を指示し傍ら岐路の杖占を爲したるに過ぎず、尚ほ五湯地各個の概況に至つては次項に於て順次述ぶる所あらんとす。

## （其一）四萬

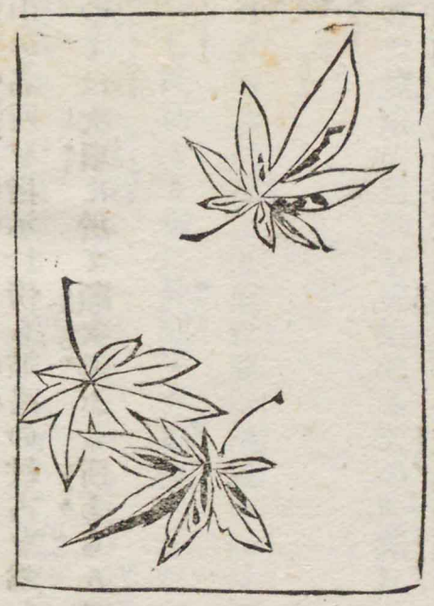
澤田村にあり大字四萬、海拔二千五百尺、四圍の風光春秋の眺め各々天美の極を盡して山水兩ら吾人の心を樂ましむるもの多く其の比を見ざる所なり

新湯川と日向見川と相會して四万川の源流をなす所、三叉の地形を劃して屋舍數十

前後山を帶ひ水に枕み風塵揚らず寒暄身に適し天與の温泉各所に湧く之れ是を新湯となす

新湯の南數丁にして四万川の岸に沿ひ向山に對する一廓の幽境を見る、背後に山を繞らし前に奔湍を隔てゝ遊園地を望み風色繪よりも美なり、而して温泉滾々として湧く之れ是を山口となす

新湯より東北約十丁、日向見川の畔り嵐脚道に迫りて一條の山峽をなす所、幽邃の仙境あり、屋舍二三温泉湧く之れ是を日向見となす、四万は實に此の三所の總稱にして自然の運動地是に由て備はり浴者の健康を補全ならしむるものあり造物主の神秘寔に夫れ妙なる哉



此地東京を距る陸路四十里、道程頗る近きに非ずと雖も而も交通機關の完備は優に



日着の都人士を迎へて東都の黄塵を此の温泉に洗ひ湯川の流れに耳聽を淨めつゝ、都門の煩熱を偲ばしむるの至便なるは多く得易からざるの僻境なりと云ふべし

西に高野山の翠巒あり東に水晶山の青綠あり水波其の麓を圍繞して萬影淵に印し山禽檐に囀りて野花徑に滿つ、眞に一幅の活畫なる哉、宜なり此の地四時の遊客絶ゆ一るなきとや、矧んや地の理は北寒を阻止して嚴冬の苦を忘れしめ九夏の挹翠は涼を樹蔭に起して以て三伏の暑を知らざらしむ、若し夫れ銀月高く水晶の峰に懸りて湯川の藍碧瀲灩の金波を漂はせば滿山の紅葉錦を飾りて行水爲に朱を流すあり、春の花、冬の雪、孰れも盡きぬ眺めなりけり

## ●温泉の起源、沿革及び現狀

温泉の發見は何時の代なりしや詳かならずと雖も口碑の傳ふる所に據れば遠く千餘年の昔にありし者の如し、又延暦年間坂上田村麿東夷征伐の折、一老翁の話しに依

り此の温泉を訪ひて一浴を試みられしことありなど傳ふれど正史の據るべき者あらざれば唯口碑の一說を揭げ置くのみ、戰國時代に於ては療浴の必要より自然溫泉場の繁昌せしこと古書に見ゆる所なりしが、此の四萬の溫泉も其の頃はひに至つては頗る殷盛を極めたる者の如し、後ち天和を經、元祿年間に及びては盛んに湯宿の業を營み數多の湯女を雇傭して湯治客を綾なせしものと見ゆ、(元祿の頃には全國の湯屋業者多くの湯女を雇ひ置きしこと古書に見ゆ)既に天和二年に於ける代官への湯錢取立屆書及び其の以後に於ける各種の材料を考證せば當時の實況を推測することは難からざるべし

近邇衛生思想の個人間に發達すると與に大に溫泉療養の有効を認めて年々浴客の增加を見るものから專ら改善の策を講じ居室、浴室は勿論寢具食器等に至るまで悉く從前の面目を革め、浴醫局を設けて多能の醫士を常置し以て浴客の健康に留意せしめ、警官駐在所を置て衛生諸般の監督に任ぜしめ、また溫泉取締所を設置して役員を專任し以て溫泉場內萬班の事務を處理せしむる等、大に湯治場としての改良を行



ひしが今亦た道路の改修を爲して馬車の往復を自在ならしめ東都の客をして當日に此の地に招するの便を得、往年に倍蓰するの繁昌を見るに至りき

## ●溫泉分拆並に効用

源泉は華氏百八十三度の熱を有し、鹽の湯、岩根の湯、明治湯、瀧の湯、神告の湯、燕の湯、常盤湯、目の湯等の名稱あり、各所の巖罅又は地隙より噴湧す三所(新湯、山口、日向見)の溫泉何れも多少の含有成効分を異にすと雖も大概類似の泉質なれば玆に內務省衛生局に於て分拆せられたる新湯の分拆表を載することとはなしぬ

## ●分拆表

泉質。鹽類泉。無色透明にして弱き鹹味あり、其反應は亞兒加里性にして、一リットル中固形分二、四八〇九瓦を含有せり、其各成分及分量左の如し

▲格魯兒那篤留母　一、四八九一瓦　▲格魯兒加留母　〇、一三四九瓦

▲格魯兒麻倔涅叟母　〇、〇二一〇瓦　▲硫酸加爾叟母　〇、五八六五瓦
▲硫酸那篤留母　〇、一三七三瓦　▲鐵　痕跡
▲固形分合計　二、四八二五瓦

## ●醫　治　効　用

▲慢性皮膚病▲頑固僂麻質私▲脱臼、挫傷に由りて生ずる手足關節の痿痺▲神經病▲胃弱▲消化不良▲貧血症▲肝臟病▲紂憤の便秘▲痼痛▲子宮病及び腔の加答兒▲月經不調等

右の如く醫術上より見たる効用は三所（新湯、山口、日向見）同一の者に似たれども昔しより事實の證明は此の以外に各々不思議なる特長を有し居るこそ奇妙なれ、則ち新湯は胃腸諸病に、山口は小兒の蟲一切に、日向見は皮膚病、火傷等に卓効を奏すること洵に掩ふべからざるの事實なりとす、其他目の湯と稱して眼病に奇効を奏するものは萩橋の畔り磧の中にあり

## ●入　浴　の　心　得

入浴は無闇に回數の多きを以て有効なりとは云ふべからず否な之が爲め却て病害を受くることあり、故に先づ己れの體質に依て一樣には言ひ難きも通常の健康體にありては大概一日に二三度を適度とせり、若し病後の人又は身體に異狀ある人は必ず一浴、醫局に就て一應の診察を請ひ而して入浴の回數及其の時間をも聽かざるべからず之れ實は一般の療浴者に於ても爲さざるべからざることなりとす

▲蒸氣浴（むしぶろ）　此の蒸氣浴は四万の特長として昔より有名なるものなるが、四萬の温泉が恁くまでに人體を强健ならしむるは一に此の蒸氣浴の効果なりとまで賞讃を博するに至れり、此の蒸氣浴は通常の浴室の傍らに六尺四方位の室數個を設け簀の子を以て床となし、其の上に蓆を敷き木枕を置きて仰臥せしむるものとす、（一室一人）而して浴者は此の内に入り戸を閉づれば簀の子の床下より湧き出づる熱湯の

蒸發瀘は此の室内に滿ちて充分浴者の發汗を促し以て渾身の邪氣を掃はしむるものとす、而して此の蒸瀘浴は一日一回又は二回を適度とし一回の時間は五分乃至十五分間を超ゆべからず、又仰臥中は絶へず手拭を冷水に浸して面部及び鼻口を掩ひ以て蒸瀘の直接吸入を防ぐべし、浴後無量の爽快を覺ゆるは此の蒸瀘浴の特色なりとす

▲温泉服用　は消化を補け便秘を程よくなさしむるの効ありと雖も其の分量は一回に五勺位を日に三四回用うるを極度となすべし

▲痔蒸シ　此の痔蒸シは亦たこれ此の地の特有とも云ふべく、一個の小室を設けて痔に病める人々の爲めに此の蒸瀘浴法を利用せしもの、則ち床板に直徑一寸位の圓き小孔を穿ち此の小孔より自然に蒸瀘を噴出せしむるものとす、患者は宜しく此の小孔に手拭を疊みて當て置き其の上に患部を据へ以て充分に局所の瀘療をなすものとす、眞に心地よきものなりかし



恁くの如く四萬の温泉は種々の浴室を設けて療浴者の爲め大に其の効果を得せしめんと欲するのみならず、通常の浴室に於ても數個の浴槽を設けて緩る湯、熱つ湯の區別を爲し、又湯瀧を設けて好める人々の試療に供するなど洵に湯治場としての設備行き届ける者と云ふべし

## ●勝地

▲日向見古堂　新湯を距る東北十丁餘、日向見温泉地にあり、日向山定光寺と稱す巨大なる老杉の一圍、正に其の古きを證明して餘りあり本尊は秘佛にして窺ふこと能はずと云へり、昔し日向守定光なる人、此の温泉に浴して病癒へ越後へ赴くとき紀念として其の守本尊を此地に安置し以て温泉守護の祈願を籠めたりしとなん、後ち故へ在て飛驒里甚五郎の刻める藥師佛を安置し日向見の藥師と俗稱せり温泉宿兼休憩所として美彌佐喜、大澤屋の二軒あり名物の『ろば』風味最もよろし

▲稲裏山　東北半里の外にあり、石の祠並に碑ありて稲裏神社の參拜所と爲す、本社は遠く越後の國境（約五里）に峙てる高山の上に鎮座在すと云へり、三代實錄に元慶四年授上野國正六位上稲裏地神、從五位下勳十二等と見ゆ

▲水晶山　東南に繞る巒峯を云ふ、新湯より八丁、巖石を以て地層をなし、全山水晶帶より成る、眞に奇山なりと云ふべし、頂上に至れば淺間の噴煙を望み風光美なり、浴餘の運動を兼ね水晶の珍品を求めて家土産になすも亦た妙なるべし

▲蠟石山　北方十丁餘にあり一廊の山頭亦た是れ蠟石の奇巖に成れり、水晶山と併せて此の地の双珍となせり

▲摩耶の瀧　日向見より十數丁の北位にあり、中段巖に碎けて珠璣四面に飛び、更



に一墜の瀑布をなして水勢鑿々夏尚ほ寒きを感ぜしむ、上段を雄瀧と云ひ下なるを雌瀧と云ふ、墜落實に五丈餘、近鄉稀に見るの壯觀なり

▲小倉の瀧　北方半里の餘にあり、飛瀑一團の巖背を奔りて白水巖を洗ふの狀、恰も玉を轉すに似て頗る美觀なり、行路の風景亦た愛すべきもの多し、小倉山は紅葉の名所とす

▲遊園地　山口の對岸向山の裾にあり月見橋の畔りより入るべく四萬川の激湍に瀕して地勢平坦、櫻樹楓樹枝を交へて鳥啼き水應へ幽邃閑雅なる僻境なりとす、這は往年此の地の猿谷某氏の企畫する所に係り有志者の贊同を得て三千有餘坪の榛莽を啓き以て開園の宿志を表現せしもの設計の胸圖未だ半に至らずと雖も地の理は此の企畫を中途に擲しむるものに非ずして近き將來に於ては大に其の面目を革むるものあらむ乎

其他大泉、小泉、日向見の瀧、藥師堂、關が岡の眺望、新湯川の遊泳、鯉池の螢火

山口の聽蛙金鑛の探險等枚擧に遑あらず宜しく浴餘の清遊を試むべきなり

## ●文　苑

四萬の山むら雲晴れてすむ月の　　従一位　九條道孝
　かけも涼しきみねの松風
千々のはる萬の秋もしまつ島　　従一位　久我建通
　うきこと拂ふ出湯こそこれ
しけりあふ梢はなれて煙立つ　　正二位　福羽美靜
　しまの出湯の里のよろしき
民草のしける蓬かしまの湯は　　正三位　井上正直
　老す死なすの藥なるらん
足曳の病いゆとてかみつけの　　正五位　鈴木重嶺
　四萬のいて湯に來る人ぞ多き
かみつけに出湯は多し然はあれど　　文學博士　黑川眞頼
　四萬のいて湯はわきてしるしあり
いく藥出湯もたるすこれやこは
　よもきかしまの岩根なるらん　　正四位　本居豐穎
もろ〳〵の病をいやすしるしありて　　従四位　諏訪忠元
　四萬の出湯は貴とかりけり　　同夫人　晴子
四萬の湯の名さへ流れて諸人の
　ゆき〳〵のかすもいやまさりけり
岩か根のかさなる山の奥なるを　　文學博士　木村正辭
　いかてしまとばいふにやあるらん

### ▲四萬八景

稲裏殘雪　いなつ〳〵みふきこす風の寒さにも
　のこれる雪の深きをそしる　　秀和
高野時鳥　き〳〵もらす人ころなけれ鳴こゑも
　多か野のやまの山ほとゝきす　　同
水晶山秋月　りのひかりことにさやけし玉となる
　いしもいつてふやまのはの月　　同
日向見古堂　こゝろあらはゆあみかてらに尋ねきて
　としふる寺のあともみよかし　　同

藥王山櫻　あつさゆみはるこそ人はゞとひけれ　同
　いでゆのみやのはなにひかれて
小倉山紅葉　ちかよれは瀧もありけり小倉山　同
　もみちはかりとみるしたにまに
山口瀑布　夏しらぬところはしられけれ　同
　その山口の瀧の音にも
新湯夕照　わたとの〳〵したゆく水にてりひて　同
　かけをもしろき夕つく日かな

四萬温泉　百千鳥さへつる春はもろ人の　狩野利房
　ゆあみにつとふ四萬の山里
積善館　善きことを積まんあるしの心さへ　同
　やとの名きゝてしられけるかな
南亭絲竹北亭謳。書畫琴棋樓又樓。万客浴餘苦無事。
風流枉做百般遊。　三島中洲



溪水躍珠下碧灘。靈泉洗熱旅魂安。暮山霧散峯々白。
万縁團中月一團。　西村茂樹
人稱鑛脈含鹽分。吾信衛生占最佳。豈獨澡泉醫俗骨。
且欣湯質和肋骸。　揖取素彦
飽食過眠頭痛戒。風寒雨濕用籠防。飯前服藥浴後歩。
此是浴時喫餐方。　谷如意

## ●雜纂

### ◉貸室料

| | | |
|---|---|---|
| | | (六疊一日間) |
| 一等 | 三十五錢 | |
| 二等 | 二十八錢 | |
| 三等 | 十八錢 | |
| 四等 | 一人三錢五厘 | |
| 五等 | 一人三錢 | |
| | | (八疊一日間) |
| 一等 | 五十錢 | |
| 二等 | 四十錢 | |
| 三等 | 三十錢 | |

右は毎年七八九の三ヶ月間に於けるもの、十月より翌年六月までは大概右の内二三割方の減額をなす

◉夜具料

夜具一枚一夜三錢より十錢まで、蒲團一枚一錢五厘より六錢まで、寢卷き一枚二錢より八錢まで

右の外特等もあり

◉旅籠料

上等　七十五錢、中等　五十五錢、並　四十五錢、
晝飯上等　廿五錢、中等　廿錢、並　十五錢、

右の外特等もあり

一週間以上滯在の浴客には女中を附して炊事萬端の用辨を承はらしむる自炊的の組織になり居れり此の方法は費用を節減して大に浴客の利德なりとす

◉浴錢

（七八九の三ヶ月）　（四五六十の四ヶ月）

大人　一日　二錢　　大人　一日　一錢五厘



十二歳未滿　一錢　　十二歳未滿　八厘

但六歳以下は無料とす

▲郵便は毎日集配四回▲電信其他通常

▲有名なる料理店は叶屋、橋本屋、食料品店は長谷川、うどん、そば小松屋、おみやげ物店は住吉屋、高田屋、大弓店は關ヶ岡の松風亭、まんぢう屋は竹の屋、名物笹の雪豆腐屋は尾崎屋、牛乳屋は萬善舍外一軒

▲産物は寒晒干飯、湯垢染、焚詰鹽、四萬峰の雪（菓子）、水晶、蠟石、椎茸等とす

## （其二）　澤渡

澤田村大字上澤渡村にあり、戸數約五十海拔二千三百尺四圍の巒峰種々の趣きをなして此の一仙境を繞り俗界の塵を隔離する者の如し、前に蛇野川の清流あり背後に秋葉山の翠綠あり山水相待て四時其の眺めを異にするもの蓋し此の地の特色なりと謂うべし、若し夫れ浴餘杖を秋葉の山巓に曳きて瞥一瞥せば脚下に温泉の市坊あり

南に雲井里あり聖洞あり東南に有笠山あり亦た遙かに白根、淺間、榛名等の靈山を望み微かに富嶽、磐梯山等を遠霞の裡に認め得べし、風光眞に畫よりも美なりとす

恁かる仙境にして天與の温泉湧く洵に快感に耐へざるなり

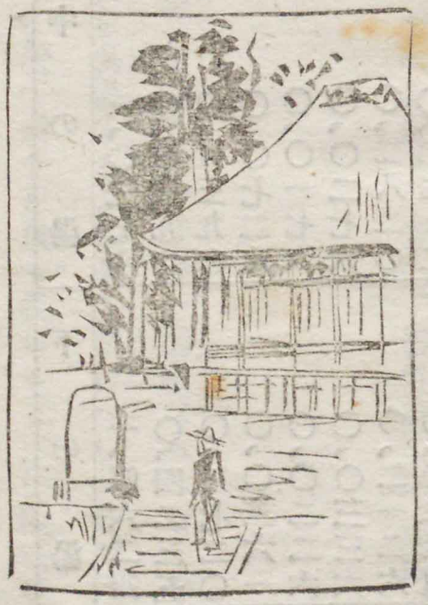
抑〻此の温泉の發見は何時の代なるか詳かならずと雖も彼の建久四年右大將賴朝の三原狩を終ふるや此の温泉に來浴せしより其名大に現はると云へり、梶原源大景季の歌に

梓弓日も暮坂につきぬれば
有笠山をさしていりがん

此の景季の歌は昔より名高きもの、されば此の賴朝の家來たる景季も同時に此の温泉の來浴せしもの乎、口碑は今尙ほ此の事實ありしを傳へて止まず、延寶七年沼田城主從五位下滋野伊賀守眞田信直等亦た來つて入浴し大に名聲を揚ぐるに至れりと

此の地は土地高燥にして空氣清澄、加ふるに冬季の意外に温暖なるは特色とする所なりしが亦た諸物價及び宿料等の低廉なるも頗る注目するに値あるものなりと云へり故に夏時に於ける浴客の雜閙は云はずもがな、冬季も案外入浴者の數を增すことありて此の浴客は何れも豐富なる近隣の山山に遊獵を試み、雉子、山鳥、兎、猴、鹿等の獲物を携へ歸り自から之を俎上に調理して晩酌の下物に供するなど、頗る僊境の趣味を掬し得べしと云ふ

從來人力車を以て浴客の送迎に充て居たりしが時勢の要求は到底之れのみに滿足することなくして遂に一昨春は大に道路の修築を行はしめ、中之條方面より馬車の往復を自在にして浴客の便乘に供せしめたれば爾來遽かに此の地の繁榮を來し遠近療浴の士女絶ゆることなし



## ●温泉分析並に効用

本泉は無色清澄にして微に鹹を味ひ硫化水素臭を有し反應は亞兒加里を呈し温度は華氏百二度より百廿七度に至る源泉一リットル（五合五勺強）中含有する固形物全量左の如し

| 藥名＼湯名 | 上の湯 | 中の湯 | 下の湯 |
|---|---|---|---|
| 鹽化ナトリウム | 一、二二八九 | 一、〇三七八 | 一、四六二四 |
| 硫酸カルシユーム | 〇、四七一六 | 〇、四三九〇 | 〇、四二三五 |
| 硫酸マグネシア | 〇、二五一一 | 〇、五三九〇 | 〇、三七二〇 |
| 硫酸アルミニーム | 〇、〇三七五 | 〇、〇七二八 | 〇、〇三六一 |
| 硫酸亞酸化鐵 | 〇、〇一六六 | 〇、〇一七六 | 〇、〇二二六 |
| 硅酸 | 〇、〇二一四 | 〇、〇二七六 | 〇、〇三三六 |
| 燐酸 | 〇、一七三三 | 〇、二八二〇 | 〇、二一二六 |
| 硫化水素 | 〇、〇二五五 | 〇、〇二一二 | 〇、〇二八四 |
| 鹽化カリユーム | 〇、〇九二七 | 〇、〇三六九 | 〇、〇七一四 |
| 鹽酸ナトリユーム | 〇、四一四二 | 〇、三一一〇 | 〇、一七八二 |
| 有機質 | 痕跡 | 同上 | 同上 |
| 總量 | 二、七三二八 | 二、七八四九 | 二、七四〇二 |

## ●醫治効用

▲線病性諸病▲慢性佝僂病（龜背）▲線病性淋巴線腫即ち瘰癧、一般梅毒、特に經久梅毒、淋病、痔瘻、痔核、脫肛、赤發肺勞、遲鈍性潰瘍、諸部炎症性腫瘍、一切の皮膚病、各種慢性僂麻質私、肋膜炎滲出物の吸收を促す、骨瘍、慢性脊髓病、中風、痛風、婦人生殖器慢性諸病

## ●入浴の心得

此の温泉は特に發汗を誘ひ、食慾を進め、血行を善くし、呼吸を活潑ならしむるの偉効あるものなれば時々飽食暴飲の爲め胃腸を傷害することあり愼むべし、亦た入浴は起床後、茶又はコーヒーを飲みたる後ちに於て爲すを最も良しとす、出浴後は少しく散歩を試み而して食餌を爲すべし、朝、元氣旺んなる時、入浴後の朝餐は亦た格別ぞかし

午後四時より五時頃迄に入浴を了へ夜遲く入浴するは宜しからず、而して一日に大

概三回位を適度とし十分間より廿分間位迄を超ゆべからず、然れども此の温泉は皮膚病を治するものから彼の糜爛を醫する爲め同患者（草津歸りの人々）は日に七八回も入浴するを常とせり、亦た之れ止むを得ざるもの歟

温泉内服は極めて少量になさざるべからず、線病性諸病及び經久梅毒の患者には通常の盃に一杯位を日に一二回用ふるを良しとす、此の量を超ゆるときは却て胃を害することあり注意すべし

また此の温泉は收歛、防腐、殺菌の特効を有し居るものなれば假令傳染性黴菌を皮膚に有する患者と混浴するも決して傳染の憂ひなしとは專門家諸氏の證言せらるる所なり

## ●勝地

▲湯前神社　浴室の背後に當る金比羅山の裾にあり、社殿甚だ壯麗ならずと雖も而も數百年前の古社なりと云ふ、境内に碑あり左の一首を刻す



萬葉集十四　國しれぬ東歌

さわたりのてこにいゆきあひあか駒か
あかきをはやみこと、はす來ぬ

▲藥師堂　湯前神社と併せて温泉の守護神となす、頗る古堂なり參詣者多し

▲金比羅山　温泉地の背後を繞る巒山にして頂上に琴平神社を祠る、眺望佳絶にして運動の好適地なり、亦た躑躅の名所にして花時の美觀言ふべからず

▲寺社原の桃林　温泉地の東南十數丁の外にあり吾妻山の麓、一大平地をなす所、枝梢參差一團の紅雲を見る、花時吟杖を曳くもの絶へず

▲天神山の公園　多年の計畫彌よ／＼茲に實現せるものにして榛莽荆棘を啓き大に眺望の美を擅にせしもの、尙ほ人工の妙を極むるあらば將來多く得易からざるの公園たるならん、天神の祠あり賽する者多し

▲唐繰原苗圃　温泉地の西方十丁餘、草津沿道の兩側に跨がりて渺茫たる一大苗圃

を見る、之れ先年東京大林區署の經營せる所にして櫻苗を以て全園の周圍を劃し面積實に六十五町歩餘、杉、檜、松、柏、檜、栗、欅、栃、梶、等數多の樹苗を栽培して各地植林の繁榮を圖らんとせるもの地味の相定宜しきを得て枝葉愈々繁茂せり

▲蛇野川垂釣　夕陽斜めなるの頃一竿の綸を垂れて蛇野川に釣遊を試むるも妙なるべしヤマメ、イワナ等少なからず

其他大岩不動の瀧の邊り又は寺社原の水邊に山椒魚を捕獲するも面白かるべく反下の山を跋渉して水晶、蠟石を採り又有名なる反下海苔の採取地を訪ふなど浴餘の清遊頗る多し

## ●文　苑

大岩瀑布　たちやらてくもかとみればさゝれ石の
　　大岩瀧のたきつしら浪

聖洞子規　仙人のすみにし跡をゆかしみて
　　やまほとゝぎす洞ちかく啼

有笠山秋月　うかれ出てこゝに有笠山の端に
　　さやかに照す秋の夜の月

小富士暮雪　小不二山つもりし雪もくれなゐと
　　見るや入日の嶺の夕映

金比羅山花　さきしよりみいつは世々にかほるなれ
　　琴平山の花のあけぼの

湯前神社大前に
今様歌を詠し奉る

神のみいづの世になかす温泉は宮よきても見よ澤渡りさとの里ひとのこゝろのきよき是のみと

▲澤渡八景題詩

碑瓦翠嵐勝景開。　千尋瀑布同於雷。　古今不減飛流勢。
把此名山活動成。(大岩瀑布)　十分洗出月明秋。　廣寒玉露今將滴。
雨後西風雲忽收。　有笠山中有笠有。(有笠山秋月)

當年聖者行無跡。　古堂蕭然綠四圍。　欲拂雲烟尋道去。
杜鵑空喚不如歸。(聖洞子規)　同
渡口露甘螢己肥。　熒煌點處草離々。　晚來忽被風吹亂。
遊浴閑人求宿時。(澤渡螢火)　同
蛇野溪頭雨晚晞。　誰家童子立漁磯。　風前折取纖々柳。
穿得銀鱗斷江歸。(蛇野川晚釣)　同
山頭神殿石梯斜。　樹抄年々簇粉華。　樓上遊人不勞屐。
春光九十坐觀花。(琴平山櫻花)　同
元是乾坤造物工。　突然削出小芙蓉。　寒風朔雪千山暮。
獨有奇峯夕日春。(小富士暮雪)　同
抱疾閑遊事浴湯。　突天三伏日空長。　一聲雨在雲居里。
作散人間万斛涼。(雲井里驟雨)　同

▲高野瑞皐翁詩

學術走西域。雙眸睨五洲。看予業就後。天下仰餘流。　延陵四屋收錄
金漿釀春(額面)　後藤新平



『因に記す彼の高野長英氏曾て此地に遁竄し居りしかば氏の精魂に成れる歐文の書籍頗る多し又氏の彫刻せる歐文の額面あり孰れも當所福田醫士の秘藏せらるゝ所にして最も珍らしき物なり

## ●雜　纂

▲鑛泉取締所、取締役二人、評議員五人、事務員一人を置て諸般の監督をなせり
▲郵便は集配とも毎日四回
▲浴錢は四月より十月まで二錢其他は一錢但七歳以下無料
▲宿料は大概四十錢以上六十錢位迄但し特別上等は此の限りにあらず、數週間滯在の客には費用節限の爲め自炊的の組織あり
▲有名なる各店は旅館として丸はん事福田六右衛門、新叶屋、福田みさ、料理店兼業は萬屋、藤屋、料理店は丸屋、山口樓、萬年屋等
▲產物は、反下海苔、陶土、椎茸、笠峯の雪(菓子)水晶、蠟石、葱草、栗、雉子、山鳥等とす

（其二）

# 川原湯

長野原町大字川原湯村にあり戸數二十餘個海拔二千二百尺、土地高雅、空氣清涼、風景の美なるは郡中第一を以て推さるゝ所、金鷄の青嵐を背後に帶びて前に吾妻川の奔湍を抱き、川原畑の煙靄を隔てゝ天狗山の嘹嚠に對し、無數の飛瀑、峭崖壁立の間に墜ちて白帶の如く素練の如く聲鏘々として耳底の垢塵を洗へり、眞に僊境中の別僊境なりと云ふべし、若し夫れ金風一陣天下の秋を報ずるあらば滿山の蒼葉乍ち錦繡綾羅の粧ひを凝して昊天の碧瑠璃に對し神美の配合譬ふるに物なし、宜しく丹青家の採て以て師傅と爲すべく俳者の筇を曳て以て詩囊を充たすに足るべし、此の地の秋景は亦た格別なる哉

抑々此の温泉の發見は遠く仁治二年の昔に在りと古書に見ゆれども彼の建久三年四



月、右大將頼朝の三原狩に際り同時に發見されたるものなりとは齊しく口碑に喧傳せらるゝ所なり、爾後七百餘年星遷り物變り幾多の天變地異は此の土に殃して考證の湮滅を敢へなくなさしめたるぞ恨めしき、近くは寛政十一年の祝融の如き全村擧つて其の災害を蒙り殆ど舊記材料の全部を烏有に歸せしめたるは惜みても尙ほ餘りあり

と云ふべし、其の後も種々の改革を經て今日の盛況を見るに至りしが温泉の効能著しきと風景の美なると空氣の清涼なるとは自然に浴者を四方に招きて頗る優勢なる吾妻郡中屈指の温泉場とはなりしなり

屋舍廿餘戸、金鷄山の中腹に棟を並べて翠綠繚繞、眺望の美なるは亦郡中其の比を見ず、大湯、虎の湯、笹の湯、目の湯、瀧の湯等種々の特徴を有して各所の罅隙

巖際より自然に噴湧す、各々内湯を設け亦た大なる共同湯數槽を備へて隨時浴者の試療に供せり、温泉は無色透明の硫黄泉にして皮膚を白くし滑らかにし夫人令嬢の最も愛賞措かざる特色を有せり、此の故に夏は東京の紳士淑女を以て室を滿たされ僻境爲に都人士の一樓閣を見るに至れるを例とせり

春は湯原の桃櫻あり、夏は不動の瀧あり、金鷄の月、聖天祠の暮雪、四時其の眺めを異にし浴者の運動を自然に促して温泉の効果を顯大ならしむるもの蓋し此の地の特色なりと云ふべきなり

## ●温泉分析並に効用

本泉は無色透明の硫黄泉にして硫化水素臭を帶び華氏百六十一度の熱を有せり、其の一リットル(五合五勺強)中含有する成効分總量左の如し

▲硫化水素瓦斯　〇、〇〇九三
▲硫酸曹土　痕　跡
▲硫酸マグネシア　痕　跡
▲硅酸　〇、〇六〇〇〇
▲格魯兒ナトリユーム　〇、六〇九〇〇
總量　一、七一四、八三(瓦)

## ●醫治効用

胃病、僂麻質私、子宮病、月經不順、關節痿痺、貧血症、消化不良、神經痛、痛風、脚氣、腸胃加答兒、子宮加答兒、慢性皮膚病等

△虎の湯は硫化水素〇、〇〇八五瓦を含み温度百四十九度、最も和かにして皮膚病、眼病、痔、火傷、切創等に特効あり

△目の湯は硫化水素〇、〇〇三四瓦を含み眼病一切に特効ありと云ふ

## ●入浴の心得

浴湯の温度は大概華氏九十度乃至百度を適度とす、内湯には數個の浴槽を設けて緩る湯熱つ湯等種々あれば宜しく温度を見計うて入るをよしとす、入浴は日に二三回位を適度とし十分間より二十分間を超ゆべからず、而して朝を最もよしとす、夜遲く入るはよろしからず

入浴の時は先づ頭部を浴湯にて温め身體を濕し徐かに湯に入るべし、行きなり飛び込むは最も害ありとす注意すべし

此の温泉は、卵湯の如きまことに香ばしき匂ひを有し又卵の薄皮を如き白きヒラ〳〵とせるものを見る、之れ所謂卵の或る性分と同樣なるものを含める證據にして此の性分は取りも直さず入浴者の皮膚を白く且つスベ〳〵に爲す此湯の特色なりとす、温泉の内服は一度に五勺朝夕二回又は三回位を良とす、餘り多量に服すれば胃腸を害するの虞れあり

## ●勝地　はせを

▲湯前神社　温泉湧源地の上部にあり、湯町を脚下に瞰て風景面白し、石段の傍に古碑あり、左の一句を刻す

山路きて何やら床しすゐ草

▲不動院　南數丁にして四百年前の古刹なりしと云ひしも今は頽廢に歸して影を止めず、文化甲卯年の奉納にかゝれる二基の石燈に左の句を認む

日盛りや松風涼し法の庭　豊耕

つれ〳〵や螢をあつむふみのぬし　岩山

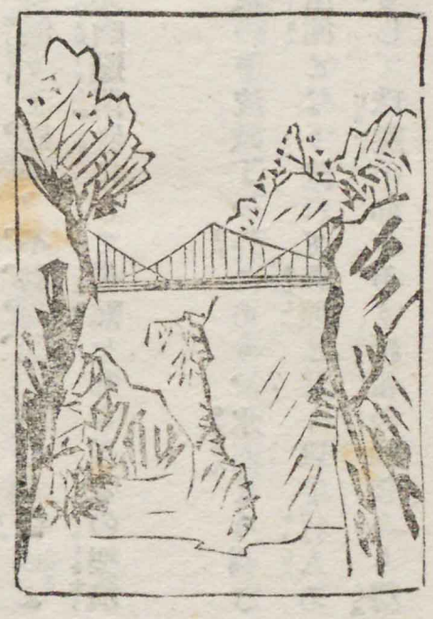
▲不動の瀧　不動院を過ぎて五六丁、飛瀑の沼々を聽く、不動の瀧と稱して昔しより水行を試むるもの多かりしと、四圍の風光幽邃閑雅にして暑熱を知らざるの樂境なり

▲新大橋　吾妻川の激流に架する所、温地泉の下流數丁の外にあり、水面より高きこと約百二十尺、水勢嚴を撲ちて潭滙して滄淵となり流れて急瀨となり以て行人の膽を寒からしむ兩岸の巖峭數條の小瀧を迸らして珠簾の如きあり縞帶の如きあり聲鏘として耳底の垢塵を洗へり、秋景亦た比ひなし

▲千歳橋　温泉地の直下にあり吾妻川に架する所、無數の鐵線を曳條して橋梁に代ゆ故に釣り橋の俗稱あり川原畑の馬車停留場に赴く便道にして風景殊に宜し

▲久森の隧道　沿道の巖壁を刳りて通洞を穿てるもの長さ十數間、此の地にありて此の工事見るべきの價値なしとせず、此の邊りは躑躅の名所にして濃淡妍を爭ひ美觀言ふべからず殊に紫色の躑躅は此の地獨特の珍花として萬人の賞愛措かざる所也

▲川原畑　温泉地の對岸に見ゆる廣漠たる麥隴桑畝の村落を云ふ一條の縣道は坦々砥の如くにして其の中央を串通し車馬の往復頗る頻繁なり、郵便局あり、馬車停留所あり、休憩所あり、此の邊りより吾妻川を隔てゝ温泉地を金鷄の山腹に望む、風光眞に愛すべし



其他堂巖の奇勝、大澤の梅林、大澤の瀧、金鷄山巓の眺望、丸巖の奇景、横壁の奇巖等浴餘探勝の地區尠しとせず

## ●文　苑

上野國なる川原の温泉は殊によろしき湯なりければこのいて湯うれしとふとし世の人の

心も身をもすこやかにして　正二位　福羽美靜

敬業館と云へる宿の名を聞きてうやまひて人まつやとのうれしさに

たれもこゝにとつとうなるらん　同

自然からわきていつみのさゝの湯は

千とせ經ぬとも絶せさらまし　讀人不知

浪あらき吾妻川のいかたしは

水馴れてやすく世をわたるかな　讀人不知

山川の流れにつゝく山吹の

はなに岸根も深き色かな　頼滿

上野のみ山の奥に涌きいてゝ

から國までも匂ふ虎の湯　敬照

川原湯の一二三の瀧は瀬をはやみ　稲丸

岩間をそゝく浪のしら糸

ゆあみすと人にはいひてみ山路の　順阿

あかぬなかめに日數弊にけり

虎の湯に古碑あり蘚苔碑面を封ずと雖も左の句を探り得たり

僅かなる竹藪なれど勢は

千里も響く虎の名湯

金鷄山の秋月　同

更ぬるか山の名にたふ鳥か音も

あけかたちかき峰の月かけ　八束

河原の出湯

汁あらふ河原のいで湯わきてまた

すゝしき夏の夕風そふく

千歳橋をよめる

萬代もよはひのふらむ心地して

千歳の橋の風そ涼しき　讀人不知



大澤橋

大澤の橋の下行く岩清水

いかて浮世に流れ出つらん　同

河原湯敬業館游中

靈泉尋到試仙遊。　一浴融然洗客愁。　神代石邊留杖望。

滿溪雲樹綠如油。

河原湯曉望　船山雙檣

曉霧濛々繞玉欄。　滿庭雲樹露珠圓。　懸泉時作瑤琴響。

一曲霓裳六月寒。　同

## ●雜纂

▲郵便は毎日集配四回

◉貸室料　毎年十月一日より翌年三月末日までは貳割減とす

一週間の定額

一等　二圓より二圓五十錢まで　二等　一圓五十錢より二圓まで

三　等　一圓より一圓五十錢まで
四　等　七十錢より一圓まで
五　等　三十五錢より七十錢まで
右の外特別上等あり

◉夜具料

一夜の定額　（一組）

一等（甲）金十錢　二等　金七錢
（乙）金八錢　三等　金五錢

右の外特別上等あり

▲一泊の宿料は大概四十五錢より六十錢迄とす但し特別賄は此の限にあらず
▲浴錢は四月より十月まで大人二錢小人一錢其他は半額但し七歳以下無料
▲有名なる旅館は敬業館萩原愼太郎、山木館樋田甚重郎、及び桝屋樋田宗七郎、柏屋豊田道藏の四館とす
▲料理店は丸木屋、山田樓、泉豊樓等▲產物は椎茸、川原煎餅、鷄峰の雪（菓子）、轆轤細工、栗、柿、雉子、山鳥等、植物としては鈴蘭、敦盛草、梅鉢草、風蘭等を主なるものとす

（其四）

## 草津

草津町大字草津村にあり、戸數三百餘、海拔實に四千五百尺、極暑華氏八十度を越ゆること稀にして蚊蠅毒虫の類を見ず、遠く人寰を隔つるの僻境なりとす

此地東京を距る西北四十五里、西に白根山を仰ぎ東南廣漠たる山野を隔てゝ吾妻山、浦倉山、万座山、池の嶺、岩寥山等の諸山逶迤蜿蜒として四隅に亘り亦た邈かに淺間の噴煙を望む視界の廣茫爽快なるは郡中其の比を見ざる所なり、地層に含蓄せる數多の藥的有効成分は温泉の爲に溶解せられて此の土に鑛泉を噴湧し古來醫術の到底拯ふに由なしとせし數多の難患を癒治せしめて天壽の全きを得せしめたるもの幾百萬人の多きに達せしや未だ知るべからず、洵に人世の一大幸福園なりと云ふべし

### ●温泉の起源、沿革及び現狀

抑々此の靈泉の發見は何時の代なりしや詳かならず或は皇極天皇以前にありと云ひ或は養老年間行基尊者の發見せる所なりと云ひ其の眞相を知るに由なしと雖も建久四年（七百餘年前）八月右大將頼朝三原狩の節此の温泉に浴せられしより名聲頓に揚れるものゝ如し

草津緑記には　右大將頼朝公建久四年八月三日信州三原御遊獵の時白根明神の烏居の前まで狩入らせ給ふに硫黄臭氣して煙立つ依て其地の住人、御殿助に仰せて叢や苅らせ地を掘らせ見玉ふに自然とよき温泉出づ是れ必ず病を治すべしと、足利駒王丸が病疾を試み玉ふに七日にして平癒す、右大將感じて御身も浴し玉ふに心地快然たり、これ無雙の温泉なりと宣ひ其地を御殿助に賜ふ云々

此の頼朝の浴せし湯を白旗の湯（元御座の湯）と稱して傍に公の祠を祀れり。後ち文明十七年（四百二十餘年前）九月堯惠法印此の温泉に遊浴せし如き文龜三年（四百餘年前）宗祇宗匠の浴せし如き將た天正十五年夏、關白近衛龍山公の來り浴せられし如きは文證を徵すべきものありて事實を知るに難からざる所なりとす、後ちまた文祿四年春、豐太閤秀吉も此の靈泉に浴せんと既に見觸を發し宿舍の取調べまで爲せしこと當時の古文書に依りて明らかなる所なりしも故ありて此の事、止みしは千秋の恨事として今尚ほ此の地に喧傳せらるゝ所なり

戰國時代に於ては各地の温泉頗る繁昌せしものゝ由なりしは前にも云へる如くなりしが此靈泉は特に外創を醫するの効ありとなし武人傷者の療浴せしもの多く今の所謂野戰病院の感を呈し、時節柄暴行をなして村民を惱まし他の遊浴者を妨げ頗る騷擾を極めたるものの如し、此の故に近邊の諸氏相謀りて當時の覇武者武田氏に哀訴し以て此の苦しみを免かれしものと見ゆ（前項「吾妻郡」中に挿めろ武田氏下知書參照）享保三年（百六十餘年前）德川八代將軍吉宗公、試浴の台命あり依て此の鑛泉を汲みて遠く江戸に輸り大に名を得しと云ふ、後ち其の湯を『御汲上の湯』と稱す、現今の『白旗の湯』即ち是なり

爾後幾多の變遷と改革とを經て今日の盛況を見るに至り名聲遠く海外に轟けり、醫

學博士ベルツ先生曾て内務省の官版たる『日本鑛泉論』に曰く草津は啻に其温泉湧出の量多大なるのみならず理科學的療養地として適當なるは日本全國其比を見ず云々と、また醫學上故中島守信氏は曰く草津は世界無比の温泉なり其成分中許多の遊離塩酸と遊離硫酸とを含有するを以て皮膚を強壯にする効顯著大なり云々と宜なる哉、此の地は頗る高燥にして空氣清涼なるのみならず火山巖の地層は汚水の潴留を爲さずして排水極めて宜しく矧むや鑛泉の防腐殺菌成分は近傍の地上に浸染して自然に黴菌を滅殺し以て傳染の虞れを莫からしむ、此の故に草津には昔しより虎列刺、赤痢、其他惡疫癘瘴の侵入せしことなく、まだ咯唾の飛散より肺病其他の傳染することなきは此地の大なる特色として誇る所なり、

されば此の地は啻に鑛泉療養地として全國に其の比を見ざるのみならず、氣候療養地としても亦た其の右に出づるものなきは專門大家ベルツ先生の證言せらるゝ所に依て明らかなるものとす

今草津町現下の實況を述ぶれば屋舍三百大小檐を駢べて旅館あり店舗あり割烹家あり妓樓あり種々の商賈雜業相接して人煙稠密頗る繁盛を致せり、旅館の大なるものは孰れも三層四層の客舍數棟を有し建築最も宏壯を極む、各々鑛泉を屋内に導き浴槽數個を設けて浴湯の温度を區別せり之れ等の旅館は皆な優に數百の客を容るゝに足り湯治場的設備の完備と衛生的注意の周到なるは全國多く其の比を見ざる所なり昔者浴季を四月より十月迄とし翌年三月迄は麓の小雨村に寒を避けしと云へるも今は恁かる迂遠なることを爲さず防寒の設備充分にして効驗最も顯著なる彼の寒湯治の勵行を怠たらざりければ此の寒中に於ける眞の療浴者は逐年增加の傾向を示せり夏季温泉場の繁昌は何れも皆な然らざるはなしと雖も海拔四千五百尺にして而も全

國無比、否な世界に誇稱せる此の靈泉の湧源地たる草津の繁盛は亦た格別にして例年五月上旬より十月中旬までは數百千の浴者絶ゆることなしと雖も七月より九月迄は多く東都の人士を以て充たされ亦た外人の來り浴するもの非常に多く隨て諸種の改良は年と與に行はれ浴醫局の設置、鑛泉取締所の設立、電信、電話其他萬斑の設備は完成して些の缺點不便を感ずることなきは洵に天の賚たる此の靈泉に對する此の地の畫策克く盡せりと云ふべきなり

交通機關の發達は往年『草津馬車株式會社』の設立を見、澁川以北日々數回の往復を爲す者なれば東京一番發車に搭乘せられたる人々は便に此地へ日着自由の便を得る事となりしなり

去る四十一年本鑛泉の『湯花』を宮内省に献納せし以來引續き同省の御買上を蒙れり無上の光榮と云ふべし

## ●鑛泉分拆並に効用

鑛泉は各所の地隙より噴湧して、白旗の湯、熱の湯、松の湯、鷺の湯、地藏の湯、脚氣の湯、綿の湯、瀧の湯、富の湯、贄川の湯、凪の湯、金比羅湯、眼の湯、瑠璃の湯、玉の湯、關の湯等の名稱あり左に時間湯五ケ所の分拆表を示す

## ●分拆表

| 五種鑛泉名 / 含蓄成分 | 白旗の湯 一名御汲上の湯 | 熱の湯 | 松の湯 | 鷺の湯 | 地藏の湯 |
|---|---|---|---|---|---|
| 硫酸亞酸化鐵 | 〇、一六六三 | 〇、二二八〇 | 〇、一九二八 | 〇、二六八八 | 〇、二六八九 |
| 硫酸礬上 | 〇、三〇五〇 | 一、一八〇〇 | 〇、二五八四 | 〇、〇二一五 | 〇、七一九八 |
| 硫酸石灰含硅酸 | 〇、七三八三 | 〇、二五五〇 | 〇、六七三一 | 〇、六三八九 | 〇、六一四九 |
| 硫酸苦土 | 〇、〇一五〇 | 〇、二九九〇 | 〇、三〇八四 | 〇、二三三一 | 〇、二一八七 |
| 硫酸加里 | 〇、四八六〇 | 〇、四二〇〇 | 〇、二〇三五 | 〇、二四〇〇 | 〇、二〇五〇 |
| 硫酸曹達 | 同 | 上同 | 上氷 | 定同 | 上同 |
| 酸性燐酸石灰 | 〇、〇一三二 | ……… | 〇、〇〇七二 | 〇、〇七二八 | 〇、〇四五〇 |
| 燐酸 | | | | | |
| 遊離硫酸 | 二、一三八四 | 一、三三九二 | 二、二八一〇 | 一、八六七四 | 一、七五七八 |
| 遊離鹽酸 | 〇、八四八五 | 〇、八五三二 | 〇、八〇三〇 | 〇、七四六一 | 〇、八八七五 |
| 有機物 | 同 | 上同 | 上痕 | 跡同 | 上同 |
| 固形分總量 | 四、七一〇八 | 四、三九五三 | 四、八六六五 | 四、〇八八〇 | 四、七一六六 |

## ●醫治効用

（梅毒）（皮膚病）（生殖器病）（呼吸器病）（胃腸病）（神經病）（外傷）即ち梅毒性腦膜炎、梅毒性喉頭炎、梅毒性皮膚諸病、梅毒性眼耳諸病、梅毒性骨膜炎、軟性下疳、胎毒、硬性下疳、三期梅毒、横痃の類、疥癬、ナマズ、ニキビの類、痲疾、睾丸炎、慢性膀胱加答兒、慢性子宮内膜炎、腟加答兒、白帶下、不妊症、痔漏、痔核の類、慢性胃腸加答兒、黄疸、ヒステリー、ヒポコンデル、慢性腹膜炎、神經衰弱、鬱憂症の類、銃創、切創、刺創、蛟創の類

（禁忌症）但入浴すべからざる病氣は、衝心の虞れある脚氣患者、癲癇、肺病にして咯血を伴ふもの、熱病のもの等は斷然入浴を禁止し專ら氣候療法を採らざるべからず、心臟病、腦病、姙婦等は成るべく入浴を節限するをよしとす

## ●入浴の心得

此の鑛泉は他の温泉と異なり強き藥物を多量に含有し居るものなれば濫りに入浴を爲すべからず、此の地の時間湯には何れも永き實驗を積みたる隊長ありて入浴の指



揮をなし、また同湯に數人の湯女（俗に茶屋女と云ふ）ありて浴者の世話をなすことなれば此の鑛泉に療浴を試み以て積年の痼疾を掃攘せんと欲するものは宜しく此の隊長の命令を守らざるべからず、是れ此の鑛泉場に於ける獨特の處置なりとす、但し内湯は此の限にあらずと雖も左の條件を忘るべからず

▲入浴の前に手拭を頭部に掛け置き檜杓にて浴槽中の湯を二三十杯浴びせかけ後ち全身を潤はして徐かに入浴する事

▲當初の内は日に一二回より多く入るべからず、二三日を經て三四回入るも妨げなしと雖も老人、小兒及び病後衰弱等の人は矢張り二回位に止むるをよしとす

▲鑛泉内服は或る病種により効ありと雖も齒牙を害し且つ不適症多ければ宜しく浴醫局に就き醫師の許しを得るにあらざれば決して服用すべからざる事

▲入浴の時間は五分より十分間を超ゆべからず、また手拭にて強く皮膚を摩擦すべからざる事

▲石鹸を使ふべからず、白粉を用ふべからざる事

▲運動法を勵行すべき事

▲食慾の増進することあるも決して妄食暴飲を爲すべからざる事

以上は入浴心得の概畧なれども此の外、入浴中種々身體に異狀を來し又は一時病勢の亢進する等のことあり、此の場合には宜しく隊長に就て其の理由を聽くべし、隊長は永年の經驗上、將た己れの責務上、これ等の質問に對しては最も懇切に說明を爲し又豫後の注意をも與ふべき者なれば此鑛泉に療浴中は只管隊長の命を遵守するを最も肝要なる事とす

## ●皮膚の糜爛

時間湯に入浴すること二週間に及べば陰部及び腋下、鼠蹊等の皮膚糜爛して液汁を排出し三四週間に至つて益々旺盛の期に入る、這は深く體中に埋伏せる病毒の此の鑛泉の誘引に由て外面に浮游し來るものにして醫術の施すに由なしとせし宿昔の痼



疾も之れが爲めに根絶し殆ど筋骨を更めたるが如き快感を覺ゆる者あり是れ此の鑛泉の特長として往々專門の大家を驚倒せしむる所なるが此の糜爛排液の期に於ては最も嚴重に浴法を守り決して妄斷の處置をなすべからず而して此の期は或る一定の時日を經るに於て休止せしむるの必要あるものなれば、宜しく隊長に諮りて其の許諾を得以て彼の澤渡温泉に赴かざるべからず（澤渡温泉の部參照）これ昔しより草津に療浴する人々の掟にして亦た此の浴療を完全に歸納せしむるの法便なりとす、尙ほ此の療浴に就ては述ぶべきこと數多あれども畧す、委しくは此地の博愛醫院醫士、下屋學氏の著述せられし『草津鑛泉療法』あれば就て見らるべし

## ●浴醫局

温泉療浴の目的を有するものは何れの温泉場たるを問はず一般浴醫局に就て己れの體質及び病症の診察を請ひ以て入浴の回數、時間及び攝生の方法等を聽かざるべか

らざるものなるが、特に此の鑛泉は多量の藥分を含み居ることなれば他の温泉に比し非常なる効能を有し居る代りに亦た一朝浴法を過まる時は意外なる弊害を釀すことあり、故に療浴者は此の地へ着すると同時に先づ浴醫局に赴き宜く己れの體質及び病症の診察を請ひ萬端醫士の命ずる所に從て入浴其他の方法を嚴守せざるべからず、是れ此草津鑛泉場に於て療浴者の特に行はざる可らざる者の第一要件なりとす

## ●新設の洗湯

此の地は地層に多量の藥物を蓄藏し居るもの故へ各所に湧出する温泉皆な隨て多量の藥的成効分を含み居ることなるが、偶には單に氣候療養を主とし單水の洗湯に入浴せんことを欲する者なきに非ず、此の故に土地の人々は多年此の單水洗湯の新設を企畫し居りしが這度『瀧の湯』に隣りて此の浴室を設け僅少の浴錢を徵して一般市井の洗湯と同じうせり、來浴者必ず多からん



## ●勝地

▲白根神社　里宮とも云へり、圍山にあり、日本武尊を祀れるものにして奥の院は白根の山頂にあり、眺望佳絶にして市街を脚下に瞰、頗る幽寂の風韵に富めり上野神名帳に從一位白根明神とあるもの即ち是なり、境内に左の碑を建つ（口繪寫眞參照）

草津鷺湯碑　皇后宮太夫從二位勳一等子爵　香川敬三　篆額

凡養病之地冬宜海濱資其温暖夏宜山間資其清涼吾邦四面皆海於冬最宜顧交通之機關未大備是以雖有高山峻嶺不得遽來往是可恨也獨上毛草津發東京駕瀛車跡碓氷嶺至輕井澤車馬半日而達加以温泉多含硫黄兼遊離酸温度極高山水秀麗空氣清澄實稱海内無比非誇張也此泉創見後鳥羽天皇建久四年源右大將賴朝獵信濃國淺間山歸八月三日來經此始浴焉至足利氏時來浴者益多効大著云地拔海面四千尺草樹鬱蒼氣候爽凉其泉湧極多中有鷺湯相傳昔時土人未知温泉之効一日見一雄鷺脚負瘡來浸足湯中須臾而愈奮翮飛去人驚其奇効因以名也余夙聞草津温泉之名嘗存大學院日帶　官命往視焉始知其名不負實矣後遊學歌洲專講究皮膚科學居五年而歸爾來往驗數丸益識其有効而鷺湯軟和頗適於皮膚也蓋以地

草津鷺湯

便於交通食物飲料皆新鮮適體況於山水之秀靈空氣之清澂乎其療沈痼治宿痾不足怪也土人聞余素嘗此地欲乞文證其緣由以建碑驚湯側告來者夫分拆泉質講究療法余責也義不可辭乃係以銘曰

悠彼温泉　盪邪濯穢　痊痾保性　肉枯起癈　名將始浴　猛鷙治瘡
厥名大著　七百餘霜　色流雲液　波浸黄玉　内除宿蠹　外掃祲毒
予業刀圭　來察泉源　玆勒銘辭

醫科大學教授　從五位醫學博士　土肥慶藏　撰
正四位勳三等　巖谷修　書　明治三十七年十月建

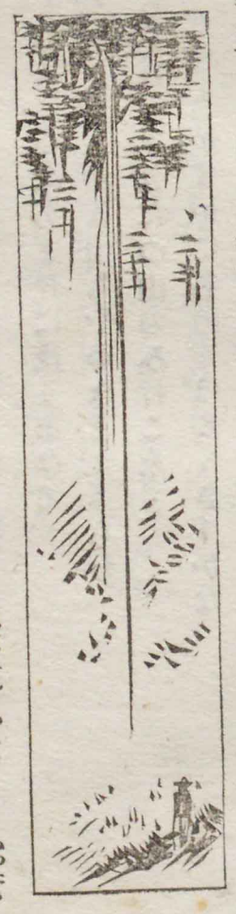
▲光泉寺　温泉別當にして古刹なり眺望頗るよし、此の寺に有名なる近衛龍山公の藥師佛を冠字に置きて詠める和歌十首を珍藏せり（歌は文苑の部に出す）

▲西の河原　賽の磧、また塞の河原などと書すれども开は誤まれるもの、市中より五丁許の西に當り、温泉所々に湧出して木の葉石、搖ぎ石等の珍らしきものあり、茶亭あり運勤散策によろし

▲常布瀧　澁峠の中途にあり墜落約百二十尺水量多くして鏗々の響き山谷を震ひ愴絶極まりなし、蓋し近傍瀑布中の最大壯觀なるものとす

▲小蓋の池　白根山の北麓にあり、池中に浮き島二ツありて東西に漂ひ頗る奇觀也

▲殺生河原　市中より約半里、白根山の麓にあり、硫黄の氣非常に噴出して飛鳥走獸これに觸るれば忽ち斃死せるより名づくる所なりと云ふ



▲白根山　海拔六千五百尺、市中より山巔に至る約三里、三個の大噴火坑あり熱湯及び常水之に噴涌して悽愴の感を起さしむ、眺望無比にして淺間の噴煙を目睫の間に見、また微かに富嶽を望む眼界濶然たり、在浴者此の靈山に躋りて雄大の景を賞する者頗る多し

其他翁仙瀧（百八十餘尺）小仙瀧、箭澤瀧、翁澤瀧、小倉瀧、ボタヌキの瀧、霜間仙瀧、北

仙瀧、南仙瀧及び折目ヶ原、琴平山、獅子岩、氷谷、蟻の途渡、日蓮堂、吹雪原池、弓池、淨行庵等枚擧に遑あらず、宜しく浴餘の清暇を得て探勝の勞を吝むべからざるなり

## ●文　苑

### 龍山（近衛公）

山路新樹（な）　名もしらぬ草木あまたに茂りあひて
　ふかき山ちやわきまよふらむ

郭公幽（む）　むらさめのすきたつ山のみねこゑて
　かすかに名のるほとゝきすかな

海邊夏月（や）　山おろし磯部の松に明たちて
　夏なき波のよする月影

五月雨（く）　雲はなをかさなる山のおちこちも
　わかぬはかりのさみたれのころ

夏草夕露（し）　しけりあふ草のむら〳〵をく露や
　くれて螢のいろにみゆらん

馴增戀（し）　しらさりき露のなさけにならぬ芝の
　なるるに袖のぬれんものとは

契後絶戀（う）　うきはたゝちきりをきにし閨の戸を
　あけやらぬ夜の人のつれなき

別切戀（に）　にくからぬ人にそひねのきぬ〳〵は
　いのちにかへてをしきものかは

旅行友稀（し）　信濃なる木曾路の山のけはしきに
　ゆきかふ袖もまれのたひ人

寄湯祝（む）　むすふてふこの谷かけの出湯こそ
　むへも老せぬくすり成けれ

常布瀧　世にしらぬ布ならなくに山姫の
　いかにさらせる瀧の白糸　堯惠

## ●雜　纂

▲郵便局は白旗の湯の傍にあり、電信、電話、爲換、貯金、小包等を取扱ふ、集配

は一日四回、夏季は五回

▲電話は去月一日より開通せり、通話區域其他次項の如し

▲有名なる商店は大坂屋、ての字屋、中村屋、一田屋（以上呉服）朝日屋、釜屋、埼玉屋、松村屋、澤野屋、藤本（以上雑貨）松月堂、東屋、羽生屋、養神堂（以上菓子）大屋（藥）眞保堂（寫眞絵ハガキ）殖能舍（牛乳）

▲有名なる割烹及び飲食店は益成屋、小松屋、快神樓、豊島樓（以上割烹）柏香亭（割烹兼ろば）金綠（ろば）山口屋（牛肉洋食）清水屋、待合亭（しるこ）浮世亭（すし）

▲滯在費は座敷料、夜具料、食料、薪炭料を合せ一週間一等四圓より十圓まで二等三圓より七圓まで三等二圓より三圓まで等

▲浴錢は五月より十月まで一人一日五錢、十一月より四月まで同參錢と規定す

▲產物は硫黃、明礬、湯の花、草津印傳、木の葉石、轆轤細工品、篠細工品、氷蕎麥、氷餅、氷豆腐、生蕎麥、鑛泉煎餅、白根の雪（菓子）ワラビ、ゼンマイ、蕨粉、岩苔等を主なる者とす

▲高山植物の主なる者は石楠、於駒草、蠅取菫（毛氈苔）虎の尾、青ビソ、山蜜柑、山葡萄、甘露梅、落葉松等



# 草津印傳の事

前項產物中に揭ぐる草津印傳は十餘年前の發明に繫り幾多の研究と資財とを投じて漸く現今の物品を製造する迄に至りしが尙ほ將來大に美術の意匠を加ふるの要あるを知り目今頻りに研究中なれば前途最も有力なる當地の產物として天下に迎へらるるの時來るならん乎

さて此の草津印傳の材料は通常の『メリンス』なるも當地獨特の鑛泉を利用して此の『メリンス』を羅紗の如く緊縮せしめ同時に諸種の物品を製出する者なれば縫目なくして體裁よろしく且つ綻（ほころ）びの憂ひなきは其の特色とする所、現今多く『財囊』を製造せり價も存外廉なればたみやげ物としては恐らく當地隨一の品ならん、名入り模樣入り等注文に應じて製造するは元祖財布屋寺島清吉、明德堂河合等なり

『編者曰く印傳は昔し印度より傳はりたる（ナメシ皮）なりと、されば甲州印傳、松川印傳等何れも材料の獸皮よるを今織物にて成れるものを印傳と稱するは如何ならんも當地一般の通稱なれば其儘茲に紹介せるのみ

# ◉電話の事

| 通話區域 | 料金 | 呼出料 |
|---|---|---|
| 長野原町 | 金拾錢 | 金拾錢 |
| 原町 | 金拾五錢 | 金拾錢 |
| 中之條町 | 金拾五錢 | 金拾錢 |
| 東京市 | 金四拾五錢 | 金貳拾錢 |

## ●架設者

| 電話番號 | 人名 | 電話番號 | 人名 |
|---|---|---|---|
| 一 | 草津町役場 | 十六 | 旅館小間物 朝日屋 折田德郎 |
| 二 | 六合村役場 | 十七 | 料理 益成屋 益成善作 |
| 三 | 旅館 松盛館 富永德次郎 | 十八 | 旅館 大東館 山本與平次 |



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 四 | 同 大津屋 山口榮太郎 | 十九 | 同 山本館 黑岩誠一郎 | |
| 五 | 酒類荒物 櫻井 櫻井長三郎 | 二十 | 同 白根ホテル 同 人 | |
| 六 | 旅館 バンヤ 市川金彌 | 廿一 | 旅館 桐山 神林喜平 | |
| 七 | 同 凱旗館 新納伊三郎 | 廿二 | 旅館吳服ての字 湯本清曹 | |
| 八 | 同 大坂屋 中澤市郎次 | 廿三 | 旅館 大坂屋 中澤市郎次 | |
| 九 | 小間もの釜屋 市川榮太郎 | 廿四 | 旅館酒類 三關屋 三關屋市松 | |
| 十 | 旅館 望雲館 黑岩忠四郎 | 廿五 | 旅館 森田屋 市川喜三郎 | |
| 十一 | 旅館 一井 市川善三郎 | 廿六 | 旅館小間物 一田屋 宮崎常吉 | |
| 十二 | 同 常磐館 宮崎武八郎 | 廿七 | まんぢう東屋 | |
| 十三 | 同 日新館 湯本柳三郎 | 廿八 | 旅館賣藥 大屋 山本佐五郎 | |
| 十四 | 牛屋 山口屋 山口吉十郎 | 廿九 | 草津馬車株式會社 | |
| 十五 | 料理うどん 柏香亭 島村金次郎 | 三十 | 旅館 養壽館 萩原定 | |

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（其五）

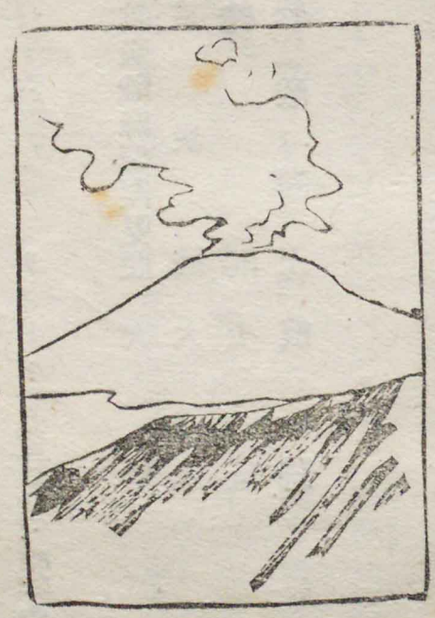
# 鹿澤

嬬戀村にあり海拔實に四千六百四十尺（草津より高きこと百四十尺）恐らく海内無比の高地温泉ならん、此故に春に後れ秋に先んじ櫻梅桃李時を同ふして夏季纔かに至り都門の苦熱人の腸を鑠かして一日の平安を得ざるの頃も此地ばかりは早や已に金風梢を渡りて垣根にすだく蟋蟀午睡の夢を驚かすと敢て珍らしとせず、されば盛夏三旬を中心として前後殆ど六十餘日此僻境に夏を銷するの人士歳と共に加はり近來非常の盛況を見るに至れり、殊に此地の美德たる惇朴なる人々の性質と費目の意外に輕減さるるとは太く遊浴者の意を迎ふる所となり大に好評を博するに至れる者の如し

偖この温泉の發見は何時の頃なりしや詳かならずと雖も孝德天皇の御宇白雉元年なりと口碑に貽れり、後ち清和天皇の皇子貞保親王東國巡狩の途次信濃國禰津村にて



眼疾を患ひ玉ひしが夢に子の方に靈泉ありと見玉ひて此地を訪ひ温泉に浴し玉ひしに眼疾忽ち平癒なしければ親王大に喜ばせ玉ひ王湯の名を賜ひしと、現今の大共同湯を昔より『王湯』と稱へ居りしもの故へ無きにあらざるなり、後ち數百年漸く荒廢に歸せしが今より凡り二百年前、獵師某此の邊りに來りしに一頭の鹿創痍を此温泉に癒しつつあるを見、これ必ず靈湯ならんと即ち浴舍を設け名を鹿澤と稱へ一般の來浴者を待つ事となせりと是れ此の温泉場の開祖なりと云ふ



爾來幾多の星霜と改革とを經現今の一廓を見るに至り王湯、千代の湯、瀧の湯、及び貸切湯等の數槽を設け宏大なる旅館檐を駢ぶるの盛況を呈し尚ほ改善の法頻りに講じられつつあれば將來の殷盛蓋し想像するに難からざるべし

又此附近は高山植物及び昆蟲（殊に蝶）の採集地として將た地質の研究地として學界に資する所多かりければ斯學に志す人々は宜しく一遊の間を吝む可からざるなり

## ●温泉分析並に効用

本泉は無色透明の炭酸泉にして温度は華氏百十六度なり一リットル（五合五勺强）中に含蓄せる成効分總量左の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| ▲遊離炭酸 | 大量 | ▲重炭酸麻倔涅叟亞 | 大量 |
| ▲重炭酸亞酸鐵 | 少量 | ▲重炭酸 | 大量 |
| ▲硫酸麻倔涅叟亞 | 少量 | ▲硅酸 | 少量 |
| ▲硫酸亞酸化滿俺 | 痕跡 | ▲硫酸礬土 | 痕跡 |
| ▲炭酸那篤留母 | 痕跡 | | |
| ▲固形物總量 | 一〇五五瓦 | | |

## ●醫治効用

胃病、腦病、神經衰弱、僂麻質私、痔疾、金瘡、瘡、貧血症、小兒痺疳、婦人血の道等にして就中胃病、腦病、神經衰弱等には最も有効なりと雖も癲病、及び梅



毒には宜しからずと爲し古來入浴を禁じ居れり

## ●入浴の心得

入浴の回數は其人々の體質により一樣ならずと雖も通常の健康體にありては大概一日三四回を適度とす、又其の時間は十分より十五分位を超ゆべからず、湯瀧に懸る時は直接頭部を打たしむべからず頸及び肩の邊りを靜かに打たしむべし此の時間は凡り五分位を過すべからず、又此温泉を服用するには一度に五勺位を一日二三回試むべし而して服用後一時間位を經ざれば必ず茶を飲むべからず是れ温泉に含有する鐵氣と衝突するの虞あればなり

## ●勝地

▲地藏峠　信州方面より當地に至るの道程にあり當所より半里、一帶青氈を敷けるが如く又秋草の名所なり眺望極めて宜く駿河の富嶽を望めり

▲湯尻川　温泉地に沿ふて流るる溪流なり水清く嘉魚を產す、錦蛙の音床し

▲棧敷山　温泉地の南方に見ゆ眺望絕佳にして秋日紅葉の美譬ふるに物なし、往昔源頼朝狩獵の折この山巔に棧敷を設へ其の動靜を監視したりと故に此名あり

▲藥師堂　堂宇に壯嚴の美なしと雖も眺望の美之を補ふて餘りあり

▲湯の丸山　温泉の背後に見、滿山靑草に蔽はる、秋草の名所にして百蟲の唧々無常の感殊に深し、今は牧場となれり

▲淺間裏山登り　淺間山に登るもの多くは小諸、輕井澤方面よりするを常とす、然れども其の雄大なる景色と凄絕たる大熔巖の噴出せる跡とを訪はんと欲せば當所より裏山登りをせざるべからず、彼の『押出シ』と稱する長二里幅一里に餘れる冥界の現象到底筆紙の克く盡すべきに非ざるなり、又高山植物の採集地として名高し

▲河鹿澤の開墾地　大笹の人士屋八郎太氏の經營する所にして淺間山の裾野渺茫涯りなき一大平原を拓き今や廿餘町歩に涉れる叢林を現出するに至りしもの卓見の業なる哉、此所より彼の『押出シ』を十丁の外に見、淺間の全景を吾が庭園の築山に擬す壯觀極まりなし、淺間裏山登りの途次氏の廬を叩く亦た面白からん

## ●文苑

鹿澤温泉八勝　　石門老生

△棧敷山紅葉　月に日に滿て色濃き紅葉哉
△藥師堂翫月　見るものゝ是か司か秋の月
△湯尻川晩釣　水に浮く鰍も光る月夜哉
△湯丸山暮雪　降るほどは皆つみ〳〵て暮の雪
△小在池の鹿　水にさす影もうるはし朝の鹿
△山神時鳥　やう晴た山の洞なりほとゝぎす
△地藏ヶ原鶉　秋草もよしや鶉の走りくち
△芳ヶ原杜若　なつかしき花の色なりかきつばた

## ●雜纂

▲郵便は一日集配二回

▲滯在費　座敷料、寢具料、賄共合して一日三拾錢以上一圓以下
▲一週間貸切室料壹圓以上壹圓五十錢以下
　但座敷貸切は自分賄の事
▲旅籠料　一泊四拾錢以上八拾錢位まで
▲浴錢　一日壹錢五厘但五歳以下無料
▲有名なる一等旅館は鹿鳴館宮崎彌太郎、增屋戸部長十郎、紅葉館小林龜藏の三館とす其他檜原館、末廣館等あり
▲產物　嘉魚、イワナ魚、生りば、片栗粉、甘露梅、椎茸、鹿澤の雪(菓子)等また高山植物の豐富なるは全國稀に見る所なり。

附記す、別項(道案内)の第二順路に據り此の鹿澤溫泉に到れば途中の風景頗る愛すべき者あり、其の新張より地獄峠の絕頂までは髣髴として彼の函嶺の夫れに似て道程の賒るを知らず相模灘の滄溟瞰るに由なしと雖も信濃反圃の稻田は穗波搖て農夫の欸乃を輸り左右の山脚或は蹙り或は潤き鳥啼き溪應へ雲霧徂徠して變幻極まりなきもの洵に夫れ彼れと擇ぶ所なからむ、若し夫れ假りに新張を函嶺の湯本に擬せば鹿澤は眞に其の蘆の湯ならむ乎、されども這は啻に其の地形山容を相して彼此對照せしの一例に過ぎざるのみ盍ぞ好むで曲庇の言を爲すものならむや、函嶺の景は海外に鳴り鹿澤の勝は一地方に聞ゆるのみ豈其間の徑庭固より論ずべきに非ざるなり

新張より鹿澤まで百丁と稱す故に此所より一丁毎に觀世音菩薩の石像を道側に安置し里標に代ふ、其の第四十番及び第五十番に茶亭あり眺望最もよろし。

上州吾妻五湯案内　改訂再版　終

明治四十一年八月九日初版發行
明治四十三年七月五日印刷
明治四十三年七月十日再版發行

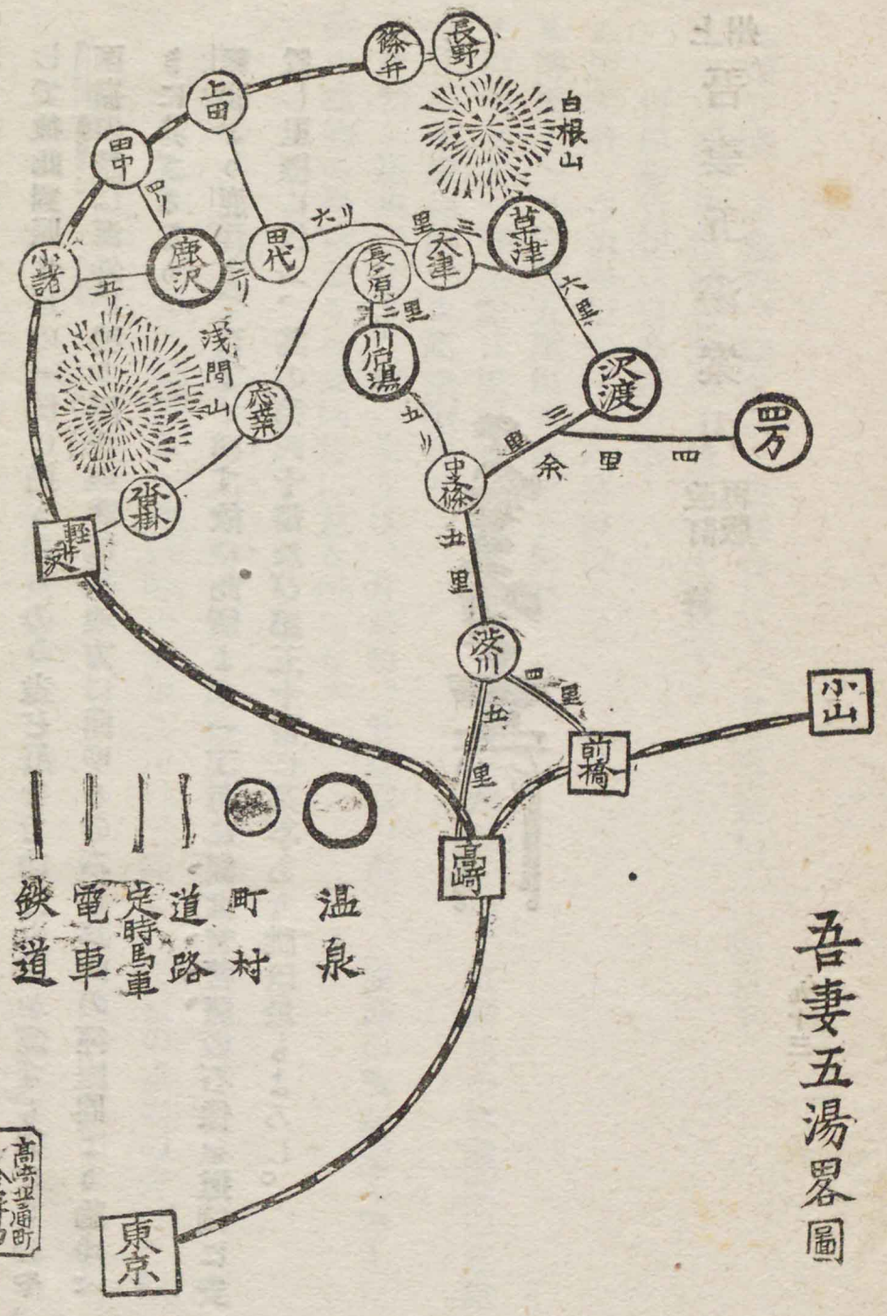
不許複製

上州吾妻五湯案内奥付
定價金參拾錢

著作兼發行者　島田齊胤　群馬縣高崎市田町六十九番地

印刷人　飯島代太郎　群馬縣高崎市柳川町百四十七番地

印刷所　成立舍支店　群馬縣高崎市田町六十九番地




吾妻五湯畧圖

高崎上通町 金井力

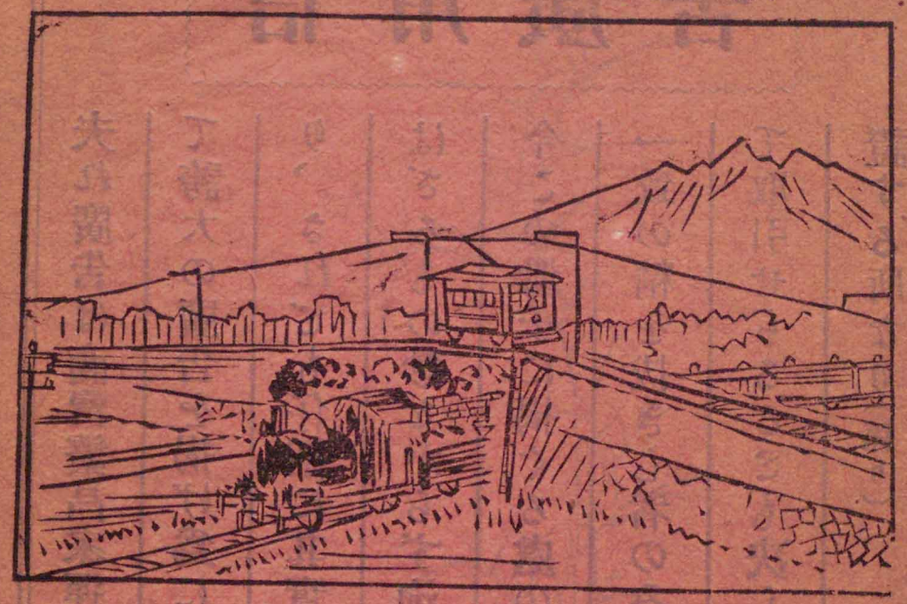
# 信用廣告

夫れ廣告は商賣繁昌家運隆盛の基なり、故に諸業競うて誇大の廣告を掲げ爲に萬金を投じて惜まざるものあり、されども仔細に其實質を精査せば廣告の言明と副はざるもの尠なからず洵に寒心に堪へざるなり

今この册子に掲ぐる處の廣告は如上の弊を惡んで言質一致の精を拔きし者のみなれば孰れも充分の信を措きて取引せらるるこも決して間違ひ無きこと飽くまで保證する所なり(係り)

# 上州各溫泉

高崎市飯塚に於ける高架式電鐵の實景



東京及び信越線方面より上州の各溫泉へ通ずる最も便利なる電車は即ち是れ

三十分間毎に發車す




# 高崎市の交通機關

## 高崎水力電氣株式會社

電話 本社 拾八番
運輸部（電車用）百三十番

▲本館の客室は最も高潔閑雅に御座候
▲本館は上毛の山水を双眸に收め申候
▲本館の庭園は廣濶にして御散策に宜敷候
▲本館は園遊會場の設備御座候
尙御客樣の旅情を慰むべく諸般の設備を盡し特別勉强と懇切を旨とし御饗遇可申上候
間倍舊の御愛顧偏に奉願上候
◉追白　伊香保、草津、四萬、澤渡等各温泉行きの電車停留場は本館の店前に御座候

高崎市停車場前
旅館兼御待合
**高崎館**
▲電話壹參參番

院長
**醫學士 津久井省已**（セイキ）
前橋市相生町
**津久井醫院**
（電話百六十八番）

**産婦人科**
**内科**
▲午前宅診　▲午後往診





**齒科專門**

毎月二回
十日廿五日
中之條町
福田屋
出張

**澁川町元宿**
大谷齒科醫院
院主　大谷祥太郎

ジャム製サントウキッチ
旅行辨當
洋風菓子
和洋ビスケット
和洋諸鑵詰
食料品
食麵包

本店　▲電話　二〇三
▲振替貯金口座番號　八〇四
高崎市連雀町

支店　▲澁川上ノ町
▲電話四七

**日英堂**
食パン本舗

# 草津馬車株式會社 澁川

（吾妻温泉定時馬車）

## ●發車時刻

| 澁川發車 | 行先地 |
|---|---|
| 午前八時 | 草津、川原湯、川中、四萬、澤渡の各温泉地 |
| 仝九時卅分 | 仝 上 |
| 仝十一時卅分 | 仝 上 |
| 午後十二時卅分 | 川原湯、川中、四萬、澤渡の各温泉地 |
| 仝二時卅分 | 四萬温泉 中之條町 |
| 仝四時卅分 | 中之條町 |

## ●賃金

| 行先地 | | 賃金 | 碧崎電車前橋電車兩社ノ扱ニ係ル割引賃金 |
|---|---|---|---|
| 草津 | 片道 | 一、九〇〇円 | — |
| | 往復 | 三、三〇〇 | 三、二〇〇 |
| 川原湯 | 片道 | 一、二五〇 | — |
| | 往復 | 二、一〇〇 | 二、〇〇〇 |
| 四万 | 片道 | 一、一二〇 | — |
| | 往復 | 一、九〇〇 | 一、八〇〇 |
| 澤渡 | 片道 | 、九九〇 | — |
| | 往復 | 一、六〇〇 | 一、五〇〇 |
| 中之條 | 片道 | 、六〇〇 | — |
| | 往復 | 一、〇〇〇 | — |



# 發時刻及賃金表

（吾妻温泉定時馬車）

▲高等馬車は普通賃金の倍額なるも貸切には割引有之候
●前記時刻に係はらず定員に達すれば臨時增發致し候
●高等馬車の設備あり御需めに依り隨時發車致し候
●各往復切符通用を百日間として途中何れの温泉地へ下車致され候て再び目的地へ御乘車相成候共差支無之候

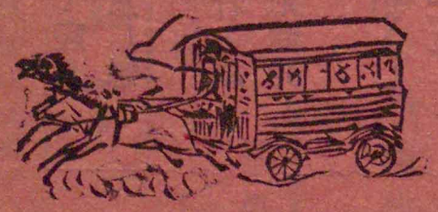
草津馬車株式會社（一名赤馬車）は創立三年にして諸般の設備完成したるを以て高崎水力電氣株式會社及び前橋電氣軌道株式會社は吾妻郡各温泉行旅客の便宜を謀り

高崎停車場前待合所　飯塚本社　澁川支社
前橋停車場前待合所　細ヶ澤本社　澁川支社

に於て前記各温泉地行乘車券を發賣し直に電話にて澁川停車場前赤馬車待合所へ通知し發車の準備を整へ候に付至極便利に有之候而已ならず兩社扱に限り前掲の如く賃金に特別の割引も有之候に付前記發賣所に於て御需めの上御乘車相成度候

上州中之條町

**草津馬車株式會社**



# 鍋屋
# 吾嬬館

（吾妻郡中之條町上ノ町）

（草津馬車株式會社前）

○中之條町は吾妻郡各温泉地に至るの中樞なり

○當館は客室清潔にして寢具食膳等專ら衛生に注意し懇切丁寧に取扱申候

○當館は官吏商人温泉行の旅客には特に御便利に取扱申候

○昔し十返舍一九翁の泊りし時の狂歌（道中膝栗毛）に

愛敬は外に類の中之條
鍋屋の宿の寢心のよさ

○上州社安政居士の狂歌に

親切な宿に集る中之條
一ッ鍋屋の飯を喰びたさ





吾妻郡

## 中之條町

△本館は「中の條町」の中央部にして公私とも御用達には至極都合よろしく候

# 旅館 蓬萊館福田屋

△本館は勉强と清潔を旨とし温泉行きの御客樣には萬事御便利取計らひ可申候間御投宿奉祈候

吾妻郡

## 原町

▲弊館は川原湯、草津等への通路にして馬車人力車とも御乘降至極便利に御座候

旅館

原澤樓

# 原澤五平

（諸新聞雜誌取次所）

▲弊館は眺望よろしく專ら衛生向きに留意仕候間御一泊の程奉祈候

# 上州磯部鑛泉

▲當鑛泉は信越線磯部停車場を去る僅かに三丁、最も便利なる地點にあり

▲當鑛泉は炭酸鹽泉にして療浴、内服兩用を兼ね、奏効頗る顯著なりと雖も殊に「リユーマチス」「胃病」には神の如き速効あり

▲當地は碓氷、妙義の天景を一眸に收め且つ碓氷川の清流に臨み實に山水絶美の名地なり

▲當驛は途中下車驛なるを以て、一浴旅塵を洗ひ更に旅情を壯ならしむるの快あり

▲東京方面より草津の温泉に赴かるる人々は高崎驛にて信越線に乘り換へ當鑛泉に一浴の上、輕井澤驛に下車し同所より草津へ赴かるるを第一の便道とせり

## 磯部鑛泉取締所

磯部停車場前に各旅館の支店あり萬端御用承り可申候




## 川中温泉

一名美人湯

●此の温泉は微温湯にして一度入浴すれば色白くなり皮膚スベ〳〵になれり故に昔より美人湯の名最も高し

鳴鳳館

●本館は客室四十餘あり全くの僻境に御座候

野口伊三太

（川原湯より東南壹里半）

▲▲西洋料理即席調進

▲牛豚肉其他種々

○弊店は高臺にして眺望の美は恐らく草津第一に御座候

○御注文品は多少に拘はらず即時持參可仕候

採翠舍

山口屋

電話（十四番）

吾妻郡

## 長野原町

●當所より草津まで三里、御中食は必ず弊館てに召し上るに限ります此の先きには支度所は御座いません

旅館兼御中食所　長榮館　**大津屋**

●草津行きの馬車は弊館前にて休憩致します、御入湯の御客様には萬事御注意申上ます御休泊奉願候

◉休息所◉

大津字立石　うどん　そば　**橋本屋**

御酒肴、菓子、ラムネ

△長野原より一里草津へ二里、せひ一ぷく召し上つていらつしやい

◉休憩所◉

谷所　（御菓子店）　**越後屋**

△草津へ一里、お茶など召し上つておいでなさいな





御料理　益成　電話（十七番）屋

御料理　快神　樓

御料理　小松屋

御料理　柏香亭　電話（十五番）

御料理　豊島樓

『月、雪、花の眺めより夏は涼風そよ〳〵と浮世離れしこの出湯に粋な浴みの客人はチト御散歩がてら何卒……何卒……』

27961

御　注　意

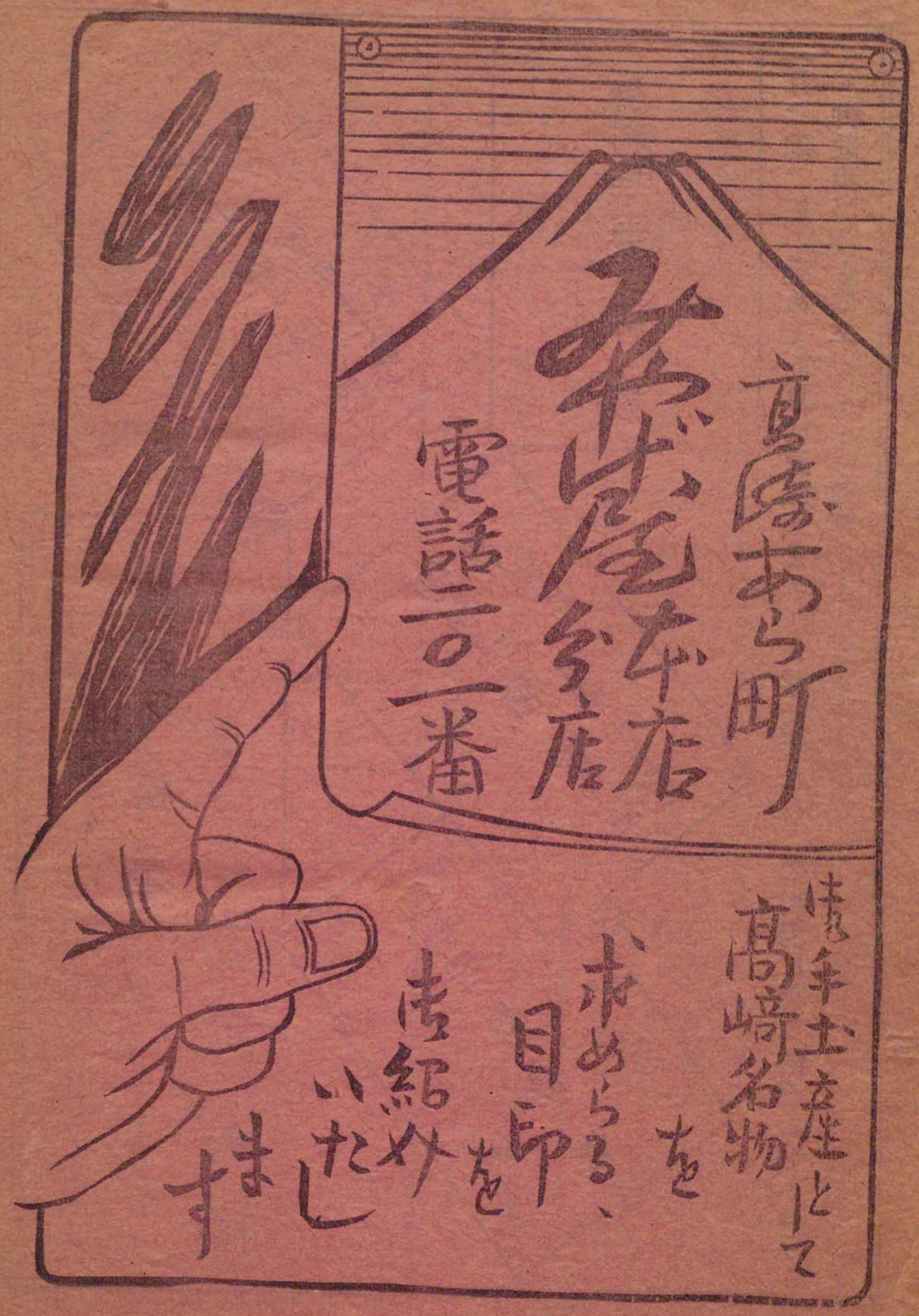
○ 本は大切に扱いましょう。

○ 本は転貸借はお断りします。

○ 10日間の期限に必ず返して下さい。

○ 本を汚損または紛失した時は同一の本
又は相当代価を弁償していたゞきます。

群馬県立図書館
前橋市栄町10番地
（電話3008番）



伊香保、四萬、澤渡、川原湯
草津、其他各温泉往返必須の至
便機關は……

# 前橋電氣軌道株式會

電話

本社 百

停車場前
乘客待合所 百

渋川支社 弐拾四番

群馬県立図書館
0238990-6